

水道工事用材料品質確認要領

(趣旨)

第 1 条 この要領は、管布設工事等水道工事における業者持ち材料の品質を確保するため、統一的な品質確認方法等監督員の事務処理について、必要な事項を定めたものである。

(品質確認)

第 2 条 監督員は、施行規程及び水道工事共通仕様書(以下、「共通仕様書」という。)の規定に基づき、設計図書等で規定されている受注者が購入する全ての材料(以下、「工事用材料」という。)について、品質の適否の判定等の確認を行わなければならない。

2 工事用材料の書類による品質確認は、事前に、受注者が提出した使用資材届(施工様式-14)及び製作図確認請求書(施工様式-15)により行わなければならない。

3 工事用材料の現場等における品質確認は、現場代理人又は主任(監理)技術者立会のうえ、監督員が臨場し、受注者が提出又は提示した関係資料により行わなければならないことを原則とするが、監督員が臨場できない場合は、提出された関係資料に基づき、机上確認することができる。

(書類による品質確認)

第 3 条 受注者が工事用材料を使用する場合には、事前に、品目、規格寸法、納入業者名及びメーカー名等必要事項を明記した使用資材届(施工様式-14、必要に応じて品質規格等を証明する資料を添付)を監督員へ提出させ、書類による品質の確認を行わなければならない。なお、納入業者名及びメーカー名が異なる場合はそれぞれを明記させなければならない。

2 前項において、下表に掲げる工事用材料を使用するときは、使用資材届(施工様式-14)に下表右欄の資料を添付しなければならない。

工 事 用 材 料	添 付 資 料
加熱アスファルト混合物	<ul style="list-style-type: none"> ・アスファルト混合物事前審査制度委員会の認定品(以下「事前審査制度認定品」という。)を使用する場合は、認定証、事前審査認定アスファルト混合物(再生混合物)総括表の写し ・事前審査制度認定品でないものを使用する場合は、 <ul style="list-style-type: none"> ①使用する加熱アスファルト混合物各々についての配合設計書及び試験練り結果 ②小規模な工事は、過去1年以内にプラントから生産され使用した実績又は定期試験による試験結果
アスファルト乳剤	・道路用アスファルト乳剤の試験表
粒状路盤材及び 粒度調整用路盤材	<ul style="list-style-type: none"> ・各路盤材の試験結果又は試験成績表 ・小規模な工事は、試験成績表
セメントコンクリート製品	<ul style="list-style-type: none"> ・アルカリ骨材反応抑制対策の適合確認資料 ・J I S製品以外は、品質規格証明書等
生コンクリート	・配合計画書
鉄筋	・ミルシート(用心鉄筋の場合は不要)
基礎碎石	・骨材の試験成績表

砂、真砂土	<ul style="list-style-type: none"> ・材料試験成績表 ・100m³以上の真砂土を購入する場合は、採石法の岩石採取計画の認可証の写し (採石法の岩石採取計画の認可証の写しが提出されない場合は、購入先として認められない)
水ガラス	<ul style="list-style-type: none"> ・JIS K 1408に規定されている内容を示す試験成績表 (工事着手前及び1ヶ月経過毎に提出)
セメント	<ul style="list-style-type: none"> ・試験成績表
硬化剤、助剤	<ul style="list-style-type: none"> ・品質証明書及び公的機関又はこれに準ずる所で発行された分析結果報告書
塗料、種子・肥料	<ul style="list-style-type: none"> ・品質規格証明書等

- 3 鋼管材料等、水道局の承認を得て製作する材料については、受注者から製作図確認請求書(施工様式-15)を提出させ、各製作図等にて品質等を監督員が確認のうえ、製作させなければならない。

(現場等における品質確認)

第4条 監督員は、次の各号により、現場において、工事用材料の品質確認を行わなければならない。

- (1) 監督員は、受注者との施工計画打合せ時等において、現場確認工事用材料の確認方法等を協議するとともに、その工事材料名及び確認方法等を施工計画書に記載させなければならない。
- (2) 監督員は、事前に、受注者から搬入数量等を記入した工事用材料確認請求書(施工様式-40)を提出させ、確認場所及び日時等を決定しなければならない。
- (3) 監督員は、工事用材料確認請求書(施工様式-40)により臨場し、使用資材届(施工様式-14)の添付資料及び納品書等と照合しながら材料確認を行わなければならない。確認後、監督員は、確認年月日、確認方法、合格数量を工事用材料確認請求書(施工様式-40)に記入するとともに確認欄に押印し、受注者に返却するものとする。この確認は、搬入ごと又は使用前にまとめて行うことができる。
- (4) 工事用材料確認請求書(施工様式-40)は、原則として、確認実施日毎に提出させるものとする。ただし、前後して(1～2日程度間において)確認を行う場合は併記してもよいこととする。
- (5) 材料確認は監督員による臨場確認が原則であるが、臨場確認が行えない場合は、受注者にその工事用材料の外観及び品質証明書等を照合して確認した資料を提出させ、机上確認することができる。

- 2 現場で確認する工事用材料の品質等については、次表のとおりとする。

工事用材料	確認手続き
鉄筋	<ul style="list-style-type: none"> ・工事用材料確認請求書(施工様式-40)
水道用資材	
給水装置指定材料	
地盤改良材(水ガラス・セメント・硬化剤・助剤)	
生コンクリート	<ul style="list-style-type: none"> ・工事日報等にて、各種試験確認日、時間を協議

(納入報告書の提出)

第5条 監督員は、受注者に、使用した全ての工事用材料の納入報告書を、工事完了前に提出させなければならない。納入報告書には、設計数量と納入数量等を記入した工事用材料集計表(施工様式-26-1)、工事用材料確認請求書(施工様式-40)及び納品伝票等を添付させるものとする。

(管布設工事における確認方法)

第6条 管布設工事における各工事用材料の品質確認方法は、別表によるものとする。

(その他工事における確認方法)

第7条 土木工事、設備工事等その他工事の品質確認については、この要領に準ずるものとする。

(委任)

第8条 この要領に定めるもののほか必要な事項は、技術部長が別に定める。

附 則

この要領は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、令和7年10月1日から施行する。

各 工 事 用 材 料 の 品 質 確 認 方 法

(1) 加熱アスファルト混合物(仮舗装含む)

〔着工前〕

○使用材料の確認

- ・「使用資材届」(施工様式-14)に、下記の1,2のいずれかの資料を添付したものを提出させ、「使用資材届」(施工様式-14)(資料1参照)に明記されている品目、規格・寸法、メーカー名を確認するとともに、添付資料にて、設計図書との適合性等各混合物の品質確認を行う。

※添付資料は

1. アスファルト混合物事前審査制度^(注)の認定品を使用する場合

◇認定証、事前審査認定アスファルト混合物(再生混合物)総括表の写し

【注】「アスファルト混合物事前審査制度」とは、工事の発注単位ごとに行なわれているアスファルト混合物(再生アスファルト混合物含む)の品質管理に関する基準試験等を事前に審査し、これを認定することによって工事ごとの試験を省略し、もって監督員、受注者及びアスファルト混合物製造者の省力化を図るとともに、アスファルト混合物の安定した品質確保を図ることを目的とした制度であり、平成14年4月1日以降発注する工事で、広島都市圏のアスファルト混合所から出荷されるアスファルト混合物を使用する工事を対象としている。

事前審査対象混合物一覧表

主な 使用 か所	アスファルト 混合物名	最大 粒径 (mm)	一般混合物				再生混合物			
			標準混合物		特別対策混合物		標準混合物		特別対策混合物	
			50回	75回	50回	75回	50回	75回	50回	75回
上層 路盤	アスファルト安定処理混合物	30 以下	V-01				R-01			
基層	粗粒度アスファルト混合物	20	V-02	V-02A	V-02B	V-02W	R-02	R-02A	R-02B	R-02W
表層	密粒度アスファルト混合物	20	V-03	V-03A	V-03B	V-03W	R-03	R-03A	R-03B	R-03W
		13	V-04	V-04A	V-04B	V-04W	R-04	R-04A	R-04B	R-04W
	細粒度アスファルト混合物	13	V-05				R-05			
	密粒度ギャップアスファルト混合物	13	V-06		V-06B					
	積雪寒冷地用アスファルト混合物	13F	V-07				R-07			
	ポーラスアスファルト混合物	20			V-08W					
		13			V-09W					
	透水性開粒度アスファルト混合物	13	V-10							

※ 原則として上表に示す混合物から申請者(アスファルト混合所)が選定し、認定を受けたアスファルト混合物を対象。

※ 「V」はバージンAs材、「R」は再生As材で審査対象混合物、「W」は耐流動対策混合物を示す。

※ 特別対策混合物は、改質アスファルトを使用した混合物を示す。

※ マーシャル安定度試験に使用する供試体の突固め回数(50又は75回)は、B交通以下50回、C交通以上が75回とする。

なお、積雪寒冷地用アスファルト混合物及びポーラスアスファルト混合物については、交通区分に関係なく50回とする。

(交通ランクは、L交通 ⇒ A交通 ⇒ B交通 ⇒ C交通 ⇒ D交通の順となっている。)

○広島市の管理道(復旧工事施行基準より抜粋)の事前審査対象混合物についての使用例を下表に示す。

舗装仕様	交通ランク	突固め回数	上層路盤	基 層	表 層
A号工	C交通	75回	R-01(50回)	R-02A	R-03A
B号工	B交通	50回		R-02	R-03
C号工	A交通	50回			R-03
D号工	L交通	50回			R-03
E・F号工	—	50回			R-04
歩 道	—	50回			R-05
歩道(透水性舗装)	—	50回			V-10

※ 上層路盤は、突固め回数が50回しかないため、これで対応する。

※ E・F号工及び歩道の舗装仕様は、交通ランクで決定していないため、突固め回数は50回とする。

2. 事前審査制度認定品でないものを使用する場合

◇使用加熱アスファルト混合物各々についての配合設計書(①使用骨材性状試験表、②使用アスファルト性状試験表、③石粉試験表、④混合物粒度の設定表、⑤マーシャル試験結果表、⑥マーシャル特性値グラフ、⑦現場配合設定書)及び試験練り結果(①ホットビン粒度、②抽出試験・ふるい分け試験結果、③マーシャル特性値)の写し

◇ごく小規模な工事(総使用量 500 t 未満あるいは施工面積 2,000m² 未満)においては、これまでの実績(過去 1 年以内にプラントから生産され使用した)又は定期試験による配合設計書

○加熱アスファルト混合物の排出時における温度設定及びその変動の範囲の承諾

- ・監督員は、舗装工事に関する施工計画書等の記述内容にて、加熱アスファルト混合物の排出時における温度設定及びその変動の範囲について確認を行う。(変動は、承諾した温度に対して±25℃の範囲内とする。)

〔施工中〕

○温度測定(初転圧前)

工 種	規 格 値	試験基準
アスファルト 舗装工	110℃以上 ※温度計による。	随時 ※測定値の記録は 1 日 4 回(午前・午後各 2 回)
排水性・透水性 舗装工	初転圧温度は合材工場の規格値による。 ※温度計による。	

○アスファルト混合物の現場密度試験

- ・受注者は、舗装種別(号工)ごとに採取したコアにより、現場密度の測定^(注)を行い、各測定値が規格値を満足しているかどうかの確認を行う。

〔現場密度の測定試験における規格値〕

工 種	規 格 値	試験基準
アスファルト 舗装工	基準密度の 94%以上	・舗装種別(号工)ごとに 1 孔以上で測定する。 ・締固め度は、個々の測定値が基準密度の 94%以上を満足するものとする。 ※維持工事を除く。
排水性・透水性 舗装工	基準密度の 94%以上	

【注】:「現場密度の測定」とは、舗設時における締固めの程度を測定する試験で、アスファルト舗装工については、舗装調査・試験法[3]-218 (B008-1 密粒度アスファルト混合物等の密度試験方法)、排水性・透水性舗装工については、舗装調査・試験法[3]-224 (B008-2 開粒度アスファルト混合物等の密度試験方法)によるものである。

○現場透水試験

- ・受注者は、排水性舗装及び透水性舗装について、現場透水量の測定^(注)を行い、測定値が規格値を満足しているかどうかの確認を行う。
- ・現場透水量の測定を行う場合、監督員は立会し測定状況を確認する。

〔現場透水量の測定試験における規格値〕

工 種	規 格 値	試験基準
排水性・透水性 舗装工	1000mL/15sec 以上(車道) 300mL/15sec 以上(歩道) ※1 測点につき 3 回測定の平均	1,000m ² ごと。

【注】:「現場透水量の測定」とは、排水性舗装や透水性舗装等、雨水を浸透させる透水量を測定する試験で、舗装調査・試験法[1]-154 (S025 現場透水量試験方法)によるものである。

〔施工後〕

○品質に疑問を生じた時におけるアスファルト量・粒度報告の確認

- ・アスファルト混合物事前審査制度認定品を使用する場合において、監督員が品質に疑問を生じた時は、工事の規模を問わず、アスファルト量・粒度の報告として、「〇〇(納入書・報告書・成績表)」(施工様式-26)に抽出試験結果一覧表又は計量自記印字記録データ及び管理表を添付した「アスファルト量・粒度報告書」を提出させ、品質の確認を行う。

○納入報告書にて使用数量等の確認

- ・「〇〇(納入書・報告書・成績表)」(施工様式-26)に、「工事用材料集計表」(施工様式-26-1)及び納品伝票を添付した「納入報告書」(資料 2)参照)を提出させ、「工事用材料集計表」(施工様式-26-1)にて設計数量と伝票での納入数量の確認(設計・納入数量とも割増率考慮)、伝票と「使用資材届」(施工様式-14)との整合性の確認を行う。

○品質管理の確認

- ・工事記録写真で、敷均し時における混合物の温度管理写真が撮影されているかどうかの確認を行う。
- ・「〇〇(納入書・報告書・成績表)」(施工様式-26)に、測定試験結果の資料を添付した「アスファルト混合物の現場密度測定試験報告書」(資料 2-1参照)、「現場透水試験報告書」(資料 2-2参照)を提出させ、規格値を満足しているかどうかの確認を行う。

(2) 石油アスファルト乳剤(プライムコート及びタックコート)

〔着工前〕

○使用材料の確認

- ・「使用資材届」(施工様式-14)に、道路用アスファルト乳剤試験成績表等を添付したものを提出させ、「使用資材届」(施工様式-14) (資料 1参照)に明記されている品目、規格・寸法、メーカー名を確認するとともに、添付資料にて、使用する石油アスファルト乳剤の製造年月日等の確認を行う。
〔製造後 60 日を経過した材料は使用してはならない。(共通仕様書 1-3-6-3 5 参照)〕

〔施工後〕

○納入報告書にて使用数量等の確認

- ・「〇〇(納入書・報告書・成績表)」(施工様式-26)に、「工事用材料集計表」(施工様式-26-1)及び納品伝票を添付した「納入報告書」(資料 2参照)を提出させ、「工事用材料集計表」(施工様式-26-1)にて設計数量と伝票での納入数量の確認(設計・納入数量とも割増率考慮)、伝票と「使用資材届」(施工様式-14)との整合性の確認を行う。

(3) 粒状路盤材及び粒度調整用路盤材(基礎砕石はこれに準ずる)

〔着工前〕

○使用材料の確認(提出根拠は、共通仕様書 1-3-6-3 3 参照)

- ・「使用資材届」(施工様式-14)に、下記 1、2 の資料を添付したものを提出させ、「使用資材届」(施工様式-14) (資料 3参照)に明記されている品目、規格・寸法、メーカー名を確認するとともに、添付資料にて、各材料の修正 CBR^(注1)、粒度範囲、塑性指数^(注2)等の品質確認を行う。

※添付資料は、

1. 粒状及び粒度調整用路盤材料の試験結果を添付。ただし、監督員が承諾し、これまでに使用実績がある材料を用いる場合には、その材料の「試験成績表」を添付し、試験結果は省略できる。
2. ごく小規模な工事(総使用量 500 t 未満あるいは施工面積 2,000m² 未満)においては、使用実績のある粒状及び粒度調整用路盤材料の試験成績表の提出によって、試験結果の提出に代えることができる。

【注 1】「修正 CBR」とは、粒状路盤材の強さを表すもので JIS A 1211(路床土支持力比(CBR)試験方法)に示す方法に準じて、3 層に分けて各層 92 回突き固めたときの最大乾燥密度に対する所要の締め固め度に相当する水浸 CBR をいう。

【注 2】「塑性指数」とは、液性限界(土が液性から塑性に移る限界)と塑性限界(塑性から半固体の状態に移る限界)の差をいい、試験成績表では土の液性限界塑性限界試験(PI)数値を確認する。なお、非塑性の場合は、NP と略記する。

〔施工中〕

○路盤の現場密度試験

- ・受注者は、掘削部施工面積が最も大きい舗装種別（号工）の構成路盤（上・下層ある場合は両方）で現場密度の測定^(注)を行い、各測定値が規格値を満足しているかどうかの確認を行う。
- ・現場密度の測定を行う場合、監督員は立会し測定状況を確認する。

〔現場密度の測定試験における規格値〕

工 種	規 格 値	試験基準
上・下層路盤工	上層路盤 最大乾燥密度の 93%以上 X6 95.5%以上 X3 96.5%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・掘削部施工面積が最も大きい舗装種別（号工）の構成路盤（上・下層ある場合は両方）で 3 孔以上測定する。 （例）A 号工→上・下層とも 3 孔測定 E 号工→上層を 3 孔測定 ・締固め度は、個々の測定値が最大乾燥密度の 93%以上を満足するものとし、かつ平均値について規格値を満足するものとする。ただし、平均値 X3 が規格値をはずれた場合は、さらに 3 孔のデータを加えた平均値 X6 が規格値を満足していればよい。
	下層路盤 最大乾燥密度の 93%以上 X6 96%以上 X3 97%以上	

【注】：「現場密度の測定」とは、路盤の締固めの程度を測定する試験で、JIS A 1214（砂置換法による土の密度試験方法）によるものである。

〔施工後〕

○納入報告書にて使用数量等の確認

- ・「〇〇（納入書・報告書・成績表）」（施工様式-26）に、「工事用材料集計表」（施工様式-26-1）及び納品伝票を添付した「納入報告書」（資料 4 参照）を提出させ、「工事用材料集計表」（施工様式-26-1）にて設計数量と伝票での納入数量の確認（設計・納入数量とも割増率考慮）、伝票と「使用資材届」（施工様式-14）との整合性の確認を行う。

○品質管理の確認

- ・「〇〇（納入書・報告書・成績表）」（施工様式-26）に、測定試験結果の資料を添付した「路盤の現場密度測定試験報告書」（資料 5 参照）を提出させ、規格値を満足しているかどうかの確認を行う。

(4) 区画線

〔着工前〕

○使用材料の確認

- ・「使用資材届」（施工様式-14）に、使用する塗料の資料を添付したものを提出させ、「使用資材届」（施工様式-14）に明記されている品目、規格・寸法、メーカー名を確認し、添付資料にて JIS K 5665（路面標示用塗料）の適合塗料か品質確認を行う。

〔施工後〕

○納入報告書にて使用数量等の確認

- ・「〇〇（納入書・報告書・成績表）」（施工様式-26）に、「工事用材料集計表」（施工様式-26-1）及び納入書を添付した「納入報告書」を提出させ、「工事用材料集計表」（施工様式-26-1）にて設計数量と使用数量の確認（設計・使用数量とも割増率考慮）、納入書と「使用資材届」（施工様式-14）との整合性の確認を行う。

(5) 視覚障害者誘導標示（ブロック、シート、熔融式）**〔着工前〕**

○使用材料の確認

- ・「使用資材届」（施工様式-14）に、使用する材料の資料を添付したものを提出させ、「使用資材届」（施工様式-14）に明記されている品目、規格・寸法、メーカー名を確認し、添付資料にて JIS T 9251（視覚障害者誘導用ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列に関する規定）に基づき製造されたものか品質確認を行う。

なお、熔融式については、JIS K 5665（路面標示用塗料）の適合塗料か確認を行うとともに、JIS T 9251 による線状の形成ができるか品質確認を行う。

〔施工後〕

○納入報告書にて使用数量等の確認

- ・「〇〇（納入書・報告書・成績表）」（施工様式-26）に「工事用材料集計表」（施工様式-26-1）、「工事用材料確認請求書」（施工様式-40）及び納品伝票を添付した「納入報告書」を提出させ、「工事用材料集計表」（施工様式-26-1）にて設計数量と伝票での納入数量の確認、伝票と「使用資材届」（施工様式-14）との整合性の確認を行う。

(6) 生コンクリート**〔着工前〕**

○使用材料の確認

- ・レディーミクストコンクリート^(注1)を使用する場合は、「使用資材届」（施工様式-14）に、配合計画書を添付し（混和材を使用する場合はその品質証明書も添付）提出させ、「使用資材届」（施工様式-14）（資料6参照）に明記されている品目、規格・寸法、メーカー名を確認するとともに、添付資料にて、アルカリ骨材反応^(注2)抑制効果のある混合セメントの使用の有無、粗骨材^(注3)の最大寸法、空気量^(注4)、水セメント比^(注5)等の品質確認を行う。

【注1】「レディーミクストコンクリート」とは、整備されたコンクリート製造設備をもつ工場から、随時に購入することができるまだ固まらないコンクリートをいう。生コンクリート、略して生コンとも呼ばれる。

【注2】「アルカリ骨材反応」とは、ある種の骨材はセメント中のアルカリと長期にわたり反応することがあり、反応が進むとコンクリートは膨張して多数の亀の子状のひび割れが発生する。このような現象が生ずるものを総称してアルカリ骨材反応と呼んでいる。

【注3】「粗骨材」とは、5mm ふるいに質量で 85% 以上とどまる骨材をいう。

【注4】「空気量」とは、コンクリート中に含まれる空気量をいう。

【注5】「水セメント比」とは、コンクリートの示方配合における単位水量の単位セメント量に対する重量比をいう。この値は、強度、耐久性、水密性等のコンクリートの性質に大きな影響を及ぼすので、コンクリートの特性を表す重要な指標になっている。特にコンクリートの強度は水セメント比と強い相関があり、セメントや骨材等が同一である場合には水セメント比が小さくなればコンクリート強度は大きくなる。

〔施工中〕

○現場における各種試験の測定値の確認

- ・監督員は、荷卸し時等における各種試験及び測定時に立会し、各測定値が許容値を満足しているかどうかの確認を行う。確認は、1 回/日以上または構造物の重要度と工事の規模に応じて 20～150m³ごとに 1 回行う。

なお、小規模工種*で 1 工種当たりの総使用量が 50m³ 未満の場合は、1 工種 1 回以上の試験を行う。またレディーミクストコンクリート工場（JIS マーク表示認定工場）の品質証明書等のみとし、下記の試験等は省略できる。

※上記の小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。

橋台、橋脚、杭類（場所打杭、井筒基礎等）、橋梁上部工（桁、床版、高欄等）、擁壁工（高さ 1m 以上）、函渠工、樋門、樋管、水門、水路（内幅 2.0m 以上）、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装（宅地内舗装除く）、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種）

【注意】1 工種当たりの総使用量が 50m³ 以上の場合は、50m³ ごとに 1 回の試験を行う。

〔各種試験等〕

試験項目	基準値
塩化物量 ^(注1) (カンタブ試験) ※1	0.3 kg/m ³ 以下
単位水量測定 ^(注2) ※2	配合設計±15 kg/m ³ の範囲にあること
スランブ ^(注3) 試験	スランブ 8 cm以上 18 cm以下 許容差±2.5 cm
空気量測定	4.5%±1.5%
コンクリートの圧縮強度試験	1 回の試験結果は指定した呼び強度 ^(注4) の 85%以上であること、かつ 3 回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上があること

※1 塩化物量測定対象コンクリートは、鉄筋コンクリート、セメントコンクリート舗装（鉄筋、鉄鋼等で補強されたもの）、用心鉄筋のある無筋コンクリート。

※2 1日当たりコンクリートの使用量が100m³以上施工する場合は、単位水量を測定する。

【注1】「塩化物量」とは、コンクリート(骨材中)に含まれる塩分の量をいう。

【注2】単位水量とは、表乾状態の骨材を用いてコンクリートを作るのに使用する水の量を示す。単位水量を増せば軟練りになり打設しやすくなるが、材料分離の傾向を示し、水密性の低下、乾燥収縮量の増加などを生じるので、単位水量は十分なワーカビリティーが得られる範囲で、できるだけ少なくしなければならない。工事現場におけるコンクリートの品質確保の観点から、一定の施工規模（日あたり使用量が 100m³ 以上のコンクリート工が対象）で単位水量測定を品質管理項目として管理している。

【注3】「スランブ」とは、まだ固まらないコンクリートの軟らかさの程度で、スランブコーン(上φ10 cm、下φ20 cm、高 30 cmの円錐状のもの)を引上げた直後に測定した頂部からの下がり(cm)で表したものをいう。試験方法は、JIS A 1101 コンクリートのスランブ試験法に規定されている。

【注4】「呼び強度」とは、レディーミクストコンクリートにおいてコンクリートの強度を指定するときの強度の呼び方をいう。土木構造物では設計基準強度と同じ数値である。

〔施工後〕

○納入報告書にて使用数量等の確認

- ・「〇〇(納入書・報告書・成績表)」(施工様式-26)に、「工事用材料集計表」(施工様式-26-1)及び納入書を添付した「納入報告書」(資料7参照)を提出させ、「工事用材料集計表」(施工様式-26-1)にて設計数量と伝票での納入数量の確認(設計・納入数量とも割増率考慮)、納入書と「使用資材届」(施工様式-14)との整合性の確認を行う。

○品質管理の確認

- ・「〇〇(納入書・報告書・成績表)」(施工様式-26)に、塩化物量(カンタブ試験)等試験結果資料を添付した「試験報告書」(資料8参照)を提出させ、規格値及び試験値等を満足しているかどうかの確認を行う。

(7) 鉄筋(用心鉄筋は含まない)

〔着工前〕

○使用材料の確認

- ・「使用資材届」(施工様式-14)に、ミルシート^(注)を添付したものを提出させ、「使用資材届」(施工様式-14)(資料6参照)に明記されている品目、規格・寸法、メーカー名を確認するとともに、添付資料にて、規格、機械的性質、化学成分等の品質確認を行う。

【注】「ミルシート」とは、鉄鋼メーカーが、規格が指定された鋼材を受注した場合に、その製造結果が指定された規格などの要求事項を満足していることを証明した書類のことで、一般にミルシートと呼ばれています。正式には、鋼材検査証明書、または単に検査証明書といいます。内容は、商社名・需要家名、契約番号、商品名、証明番号などの一般事項のほか、寸法、員数、質量、検査番号、めっき量(表面処理の場合)、引張試験(引張強さ、降伏点、伸びなど)、化学成分(5 元素 C, Si, Mn, P, S)などの製造実績値が記載されている。

異形棒鋼の機械的性質・化学成分(JIS G 3112)

種類の 記号	機械的性質			溶鋼分析値 %					
	降伏点又は 0.2%耐力 N/mm ²	引張強 さ N/mm ²	伸び %	C (炭素)	Si (けい素)	Mn (マンガン)	P (燐)	S (硫黄)	炭素当量
SD295	295 以上	440~600	(2号)16 以上 (14号)17 以上	0.27 以下	0.55 以下	1.50 以下	0.050 以下	0.050 以下	—
SD345	345~440	490 以上	(2号)18 以上 (14号)19 以上	0.27 以下	0.55 以下	1.60 以下	0.040 以下	0.040 以下	0.60 以下
SD390	390~510	560 以上	(2号)16 以上 (14号)17 以上	0.29 以下	0.55 以下	1.80 以下	0.040 以下	0.040 以下	0.65 以下
SD490	490~620	620 以上	(2号)12 以上 (14号)13 以上	0.32 以下	0.55 以下	1.80 以下	0.040 以下	0.040 以下	0.70 以下

◇()内数値は、引張試験片の号数であり、JIS Z 2201 を適用する。

異形棒鋼の質量の許容限度(JIS G 3112)

呼び名	公称断面積 (S)mm ²	単位重量 kg/m	呼び名	公称断面積 (S)mm ²	単位重量 kg/m	呼び名	公称断面積 (S)mm ²	単位重量 kg/m
D 6	31.67	0.249	D22	387.1	3.04	D38	1140	8.95
D10	71.33	0.560	D25	506.7	3.98	D41	1340	10.5
D13	126.7	0.995	D29	642.4	5.04	D51	2027	15.9
D16	198.6	1.56	D32	794.2	6.23			
D19	286.5	2.25	D35	956.6	7.51			

※ 単位重量=0.785×S(有効数字 3 桁に丸める)

〔施工中〕

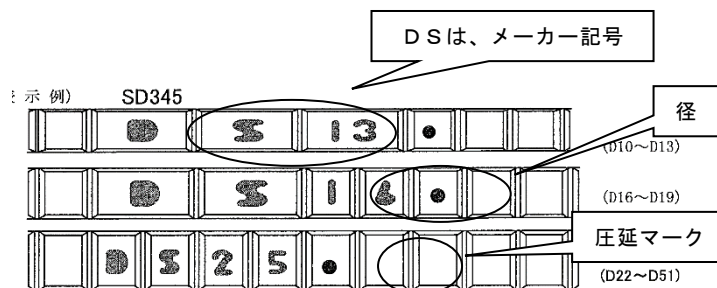
○納入時における確認

- ・監督員は、事前に、材料名、品質・規格、搬入数量等必要事項を記入した「工事用材料確認請求書」(施工様式-40)(資料7)の添付資料 3-1 を参照)を提出させる。
- ・監督員は、納入時に立会し、「使用資材届」(施工様式-14)、納品伝票にて製造メーカー名、納入数量、径等を確認するとともに、材料で圧延マーク又は表示色を確認する。
- ・確認後、監督員は、「工事用材料確認請求書」(施工様式-40)に確認年月日、合格数量、累計を記入するとともに、確認印を押印する。
- ・押印後、受注者に「工事用材料確認請求書」(施工様式-40)を返却し、納入報告書へ添付させる。

異形棒鋼の種類を区別する 1 本ごとの表示方法(JIS G 3112)

種類の記号	種類を区別する表示方法		備 考
	圧延マークによる表示	色別塗色による表示	
SD 295 A	圧延マークなし	適用しない	
SD 295 B	1 又は	白(片断面)	
SD 345	突起の数 1 個(・)	黄(片断面)	
SD 390	突起の数 2 個(・・)	緑(片断面)	
SD 490	突起の数 3 個(・・・)	青(片断面)	

【参考】現地での確認方法



〔施工後〕

○納入報告書にて使用数量等の確認

- ・「〇〇（納入書・報告書・成績表）」（施工様式-26）に「工事用材料集計表」（施工様式-26-1）、「工事用材料確認請求書」（施工様式-40）及び納品伝票を添付した「納入報告書」（資料7参照）を提出させ、「工事用材料集計表」（施工様式-26-1）にて設計数量と伝票での納入数量の確認、伝票と「使用資材届」（施工様式-14）との整合性の確認を行う。

(8) 水道用資材

〔着工前〕

○使用材料の確認

- ・「使用資材届」（施工様式-14）（資料9参照）に品目、規格・寸法、納入業者及びメーカー名、摘要にJWWA 製品・JIS 製品・承認製品のいずれかを明記したものを提出させ、庁内LANにて、使用材料が承認品であるかどうかの確認を行う。

【参考】

監督員用（庁内LAN）

- ◇水道局⇒「01」常用⇒技術管理課⇒技術管理課資料室⇒01 経営情報⇒業者持材料若しくは支給材料
- ◇業者持材料には、管路断水器、不断水仕切弁、不断水栓、不断水T字管、鋼板製不断水T字管を掲載。
- ◇支給材料には、直管・異形管、鉄蓋・土留、弁栓類、その他を掲載。

〔施工中〕

○納入時における確認

- ・監督員は、事前に、材料名、品質・規格、搬入数量等必要事項を記入した「工事用材料確認請求書」（施工様式-40）（資料11）の添付資料2-1、3-1を参照）を提出させる。
- ・監督員は、納入時に立会し、「使用資材届」（施工様式-14）、納品伝票にて製造メーカー名、納入数量等を確認するとともに、外観検査にて個々の製品について、製造メーカーの刻印（資料10参照）、公益社団法人日本水道協会の検査証印等を確認する。
- ・確認後、監督員は、「工事用材料確認請求書」（施工様式-40）に確認年月日、合格数量、累計を記入するとともに、確認印を押印する。
- ・押印後、受注者に「工事用材料確認請求書」（施工様式-40）を返却し、「納入報告書」へ添付させる。
- ・公益社団法人日本水道協会の検査証印等の記録写真は、1材料について1か所撮影させる。

【参考】

- ◇公益社団法人日本水道協会の検査に合格した水道用品には、品目別に検査証印を打刻・押印・吹付け・鋳出し、あるいは証紙の貼付を行います。



打刻・押印・吹付け・鋳出し用



証紙

〔施工後〕

○納入報告書にて使用数量等の確認

- ・「〇〇(納入書・報告書・成績表)」(施工様式-26)に「工事用材料集計表」(施工様式-26-1)、「工事用材料確認請求書」(施工様式-40)及び納品伝票を添付した「納入報告書」(資料11参照)を提出させ、「工事用材料集計表」(施工様式-26-1)にて設計数量と伝票での納入数量の確認、伝票と「使用資材届」(施工様式-14)との整合性の確認を行う。

(9) 給水装置指定材料(支給材料は除く)

〔着工前〕

○使用材料の確認

- ・「使用資材届」(施工様式-14)(資料12参照)に品目、規格・寸法、納入業者及びメーカー名、摘要にJWWA 製品・JIS 製品・管理者指定製品のいずれかを明記したものを提出させ、管理者指定製品については、以下の一覧表により適合確認を行う。(JWWA 製品・JIS 製品は、製造メーカーを指定していない。)

【参考】

受注者用(水道局ホームページ)

広島市水道局トップページ>事業者の方へ>給水装置工事関連>給水装置工事関連の申請・届出・規定>給水装置に関する規定等>管理者指定材料一覧表(PDFファイル)

監督員用(庁内LAN)

水道局⇒局課資料室2012.12⇒05 事務手引等⇒局内資料⇒④4 配水部門⇒管理者指定材料一覧表(給水装置材料)(配水課)⇒「給水・建設工事等業者の方へ」(水道局ホームページへ)

〔施工中〕

○納入時における確認

- ・監督員は、事前に、材料名、品質・規格、搬入数量等必要事項を記入した「工事用材料確認請求書」(施工様式-40)(資料13)の添付資料2-1を参照)を提出させる。
- ・監督員は、納入時に立会し、「使用資材届」(施工様式-14)、納品伝票にて製造メーカー名、納入数量等を確認するとともに、外観検査にて個々の製品について、公益社団法人日本水道協会の検査証印等及び一般財団法人日本規格協会の標章(JIS マーク)を確認する。
- ・確認後、監督員は、「工事用材料確認請求書」(施工様式-40)に確認年月日、合格数量、累計を記入するとともに、確認印を押印する。
- ・押印後、受注者に「工事用材料確認請求書」(施工様式-40)を返却し、「納入報告書」へ添付させる。
- ・公益社団法人日本水道協会の検査証印等及び一般財団法人日本規格協会の標章(JIS マーク)の記録写真は、1 材料について1 か所撮影させる。

【参考】

◇一般財団法人日本規格協会の標章(JIS マーク)は、下記のとおりである。



※ 新 JIS マークは、3 種類ある。

※ 特定側面とは、特定の製品特性に関する認証です。例:省エネ、環境 JIS 等

〔施工後〕

○納入報告書にて使用数量等の確認

- ・「〇〇(納入書・報告書・成績表)」(施工様式-26)に「工事用材料集計表」(施工様式-26-1)、「工事用材料確認請求書」(施工様式-40)及び納品伝票を添付した「納入報告書」(資料13参照)を提出させ、「工事用材料集計表」(施工様式-26-1)にて設計数量と伝票での納入数量の確認、伝票と「使用資材届」(施工様式-14)との整合性の確認を行う。

(10) 薬液注入など地盤改良材料

〔着工前〕

○使用材料の確認

- ・「使用資材届」(施工様式-14)(資料14参照)に、水ガラス、セメント、硬化剤、助剤各々のメーカー試験成績表等品質証明書を添付したものを提出させ、「使用資材届」(施工様式-14)に明記されている品目、規格・寸法、メーカー名を確認するとともに、添付資料にて、材料の品質確認を行う。

【参考】

◇JIS K 1408 に規定されている水ガラスを用いる場合の品質証明は、項目に記載されている内容を示す試験成績表を提出させる。

ケイ酸ナトリウム(ケイ酸ソーダ) JIS K 1408

項目	種類	1 号	2 号	3 号	メタケイ酸ナトリウム	
					1 種	2 種
外 観		水あめ状の無色ないしわずかに着色した液体			白色粉末又は粒状	白色結晶
比 重(15℃Be)		—	54 以上	40 以上	—	—
二酸化珪素(SiO ₂) %		35～38	34～36	28～30	27.5～29	19～22
酸化ナトリウム(Na ₂ O) %		17～19	14～15	9～10	28.5～30	20～22
鉄(Fe) %		0.03 以下	0.03 以下	0.02 以下	—	—
水不溶分 %		0.2 以下	0.2 以下	0.2 以下	—	—

※試験成績表の提出時期は、工事着手前及び1ヶ月経過ごととし、速やかに提出させる。

◇硬化剤、助剤の品質証明書には、商品名、主成分、安全性などを記載するとともに、安全確認のために公的機関又はこれに準ずる所が発行した重金属分析結果報告書を添付させる。重金属分析は、B 液として調合した状態で分析試験を行い、排水基準を定める総理府令(昭和46年6月21日令第35号最終改正平成27年5月1日環境省令第20号)の中の有害物質に係わる排水基準の種類及び許容限界を超えてはならない。なお、排水基準を定める総理府令は最終改正を適用すること。

〔施工中〕

○納入時における確認

- ・監督員は、事前に、材料名、品質・規格、搬入数量等必要事項を記入した「工事用材料確認請求書」(施工様式-40)(資料16)の添付資料3-1、4-1、(資料17)の添付資料3-1、4-1参照)を提出させる。
- ・監督員は、納入時等に立会し、下記の項目について確認する。

【水ガラス】

① ローリー車で納入する場合

- ☆ 納入数量を、数量証明書で確認するとともに、納入前後のタンクの残量により確認を行う。
- ☆ 数量証明書は、メーカーの倉出し「納入伝票」(又は出庫伝票)とそれに記載されている数量を示す「計量証明書」(看貫証明)の2点セットとなっている。
- ☆ 納入伝票(又は出庫伝票)に、「印字(プリントアウト)」されていなければならない項目は、次のとおりである。
 - a) 納入(出庫)年月日あるいは伝票発行年月日
 - b) 納入(出庫)伝票の整理連続番号あるいは管理連続番号
 - c) メーカー及び取扱工場の法人各々の正式名称
 - d) メーカー及び取扱工場の朱印
 - e) 納入(出庫)製品の名称
 - f) 納入(出庫)製品の数量及び単位

【注意】上記事項が「印字」(プリントアウト)されていない納入(出庫)伝票は、正式の伝票として認め難く仮伝票として扱う。

☆ 計量証明書(看貫証明)に、「印字(プリントアウト)」されていなければならない項目は、次

のとおりである。

- a) 計量年月日及び時刻
- b) 計量機番号
- c) 計量回数
- d) 総重量、空車重量、正味重量

② ドラム缶で納入する場合

- ☆ メーカーより直接納入する場合は、ローリー納入に準ずる。
- ☆ ドラム缶の搬入及び搬出時には、数量・比重の確認を行う。

【セメント】

① セメントをローリー車で納入する場合は、水ガラスに準ずる。

② 袋で納入する場合は、次のとおりとする。

- ☆ メーカーより直接納入する場合は、ローリー納入に準ずる。
- ☆ セメントの搬入及び搬出時には、メーカーの納入伝票(出庫伝票)等で数量の確認を行う。
- ☆ 工区ごと又は工事の区切りごとに、使用量の確認のため空袋確認を行う。空袋確認は、原則として、監督員立会いのうえ実施させる。

【硬化剤、助剤】

① 硬化剤、助剤の納入時には、メーカーの納入伝票(出庫伝票)等で数量確認を行う。

- ・ 上記各項目等確認後、監督員は、「**工事中材料確認請求書**」(施工様式-40)に確認年月日、合格数量、累計を記入するとともに、確認印を押印する。
- ・ 押印後、受注者に「**工事中材料確認請求書**」(施工様式-40)を返却し、納入報告書へ添付させる。

○薬液注入材の配合・ゲルタイム(硬化時間)等の確認

- ・ 監督員は、施工前及び施工中適宜、薬液注入材の配合・ゲルタイム・比重の確認を立会により、行わなければならない。

○注入量の確認

- ・ 注入量の確認は、自己流量圧力計で記録される**チャート紙**(資料15参照)により確認し、さらに材料の使用量などと照合を行う。
- ・ チャート紙の取扱いは、次のとおりとする。
 - ① 切断しないことを原則とし(やむを得ず切断する場合は、監督員の承諾を受けさせるとともに割印を押印する)、1 ロールごとに使用し、使用前に監督員の検印を押印する。
 - ② 1 ロールの使用が完了したら、監督員に提出させる。
 - ③ 監督員は、注入時に立会いした場合、その都度チャート紙にサインを行う。

○削孔深度及び注入長の確認

- ・ 監督員は、注入時には適宜立会いし、削孔深度及び注入長の確認を行う。

○使用材料の確認

- ・ 使用材料の確認について、監督員は立会し、材料別にブロックごと又は工事終了時に使用空袋、空ドラム缶、空缶等の確認を行う。

○地盤改良工の効果測定

- ・効果測定は、薬液注入工、小口径攪拌グラウト杭、大口径攪拌グラウト杭、コラムジェット工について行うものとし、監督員は、測定時に立会い、効果を確認する。
- ・確認の都度、監督員は、〇〇(納入書・報告書・成績表)(施工様式-26)に確認場所、確認方法、確認内容等を明記した「効果確認報告書」を受注者に提出させる。
- ・効果測定対象工事は、下表のとおりとし、効果測定か所は、受注者と協議して決定する。

工 種	区 分	効果測定対象か所
薬液注入工	(1)薬液注入量・・150K $\frac{1}{10}$ 未満	効果測定を行う必要はないものとするが、次の場合については、重要度に応じ効果測定を行う。 ① シールド工事の発進・到達防護部への薬液注入か所 ② 構築物及び地下埋設物管防護のための薬液注入か所 ③ 注入率、注入断面、注入区間等の変更をする場合 ただし、同一土質、同一注入法の場合には、1か所程度でもよいものとする。
	(2)薬液注入量・・150K $\frac{1}{10}$ 以上	効果測定を1か所以上について行うものとする。 ただし、同一土質、同一注入法の場合には、1か所程度でもよいものとする。 なお、つぎの場合については、効果測定を行う必要がないものとする。 ① 矢板背面の空隙充填のための薬液注入か所 ② 横断埋設物に伴う横矢板背面への薬液注入か所 ③ その他、工事担当課が不必要と認めた場合
小口径攪拌グラウト杭	(1)杭施工延長(杭長×施工本数)1,200m未満	効果測定を行う必要はないものとするが、次の場合については、重要度に応じ効果測定を行う。 ① 立坑及び開削における底盤改良か所 ② 立坑において山留壁として使用する場合 ③ シールド工事の発進・到達防護部の改良か所 ④ 杭長、施工本数、施工区間等の変更をする場合 ただし、同一土質、同一注入法の場合には、1か所程度でもよいものとする。
	(2)杭施工延長(杭長×施工本数)1,200m以上	効果測定を1か所以上について行うものとする。 ただし、次の場合には、それぞれについて効果測定を行う。 ① 立坑及び開削における底盤改良か所 ② 立坑において山留壁として使用する場合 ③ シールド工事の発進・到達防護部の改良か所 ④ 杭長、施工本数、施工区間等の変更をする場合
大口径攪拌グラウト杭	(1)施工量に関わらず	ただし、同一土質、同一注入法の場合には、1か所程度でもよいものとする。
コラムジェット工	(2)施工量に関わらず	効果測定を行う必要はないものとするが、次の場合については、重要度に応じ効果測定を行う。 ① 立坑及び開削における底盤改良か所 ② 立坑において山留壁として使用する場合 ③ シールド工事の発進・到達防護部の改良か所 ④ 杭長、施工本数、施工区間等の変更をする場合 ただし、同一土質、同一注入法の場合には、1か所程度でもよいものとする。

- ・地盤改良後の効果測定及び確認方法、確認内容については、下表のとおりとする。

		測定及び確認方法	確 認 内 容
薬液注入工	目視	鏡切部及び切羽部において薬液が、アルカリ性の時はフェノールフタレイン溶液、酸性の時はBTB液等による変色を目視にて確認	薬液の浸透固結範囲、固結状態、脈状注入の状況並びに鏡切部、切羽部の止水状態、自立性を確認
その他	目視	鏡切部及び切羽部において目視にて確認	止水状態及び改良部の硬さの確認
	物理試験	ボーリングによる改良部分の範囲・強度の確認、現場透水試験	改良範囲をコア採取により確認し、コアサンプル ^(注) を一軸圧縮強度試験あるいは三軸圧縮強度試験により強度増加の確認、透水試験により透水係数減少の確認

※ その他の物理試験は、構造物の基礎等強度を期待する場合に適用する。

【注意】効果の確認を行った後のコアサンプルは、コア箱に入れ、受注者にて保管させ、検査時に提出させる。コアは、乾燥すると色調が変化又は変質するので、採取後速やかにカラー写真撮影させる。

〔施工後〕

○納入等報告書にて使用数量等の確認

- ・「〇〇(納入書・報告書・成績表)」(施工様式-26)に、注入(改良)範囲を示す平面図・断面図、注入(工事)日報、材料受払簿、「工事中材料確認請求書」(施工様式-40)、納入伝票(又は出庫伝票)、注入(造成、本数)数量及び注入(造成使用)材料比較表(任意表とするが、「工事中材料集計表」(施工様式-26-1)を使用してもよい)、品質管理報告(ゲルタイム、比重)、pH管理図、濃度計量証明書、チャート一覧表、チャート紙等を添付した「地盤改良工注入報告書」(資料16、資料17参照)を提出させ、報告内容を確認するとともに、伝票と「使用資材届」(施工様式-14)との整合性の確認を行う。

添 付 資 料

【注意】

- 使用資材届や納入報告書等について、使用目的別に個々に掲載していますが、まとめて提出させてもよろしいです。
- この添付資料には、既存工事の品質証明書、納品書等を掲載しているため、工事名等を削除してします。また、各メーカーで書式が異なるため、特定するものではありません。
- 工事用材料の品質が確保されているかどうかを、品質証明書、納品書等の内容で確認してください。

【目 次】

資料 1	使用資材届(アスファルト混合物、アスファルト乳剤、地下埋設物表示鋏)
資料 2	納入報告書(アスファルト混合物、アスファルト乳剤、地下埋設物表示鋏)
資料 2-1	試験報告書(アスファルトの現場密度測定)
資料 2-2	試験報告書(現場透水試験)
資料 3	使用資材届(再生粒調碎石、再生碎石、再生砂)
資料 4	納入報告書(再生碎石、再生砂)
資料 5	試験報告書(路盤の現場密度測定)
資料 6	使用資材届(生コンクリート、鉄筋)
資料 7	納入報告書(生コンクリート、鉄筋)
資料 8	試験報告書(コンクリート、単位水量測定)
資料 9	使用資材届(水道用資材)
資料 10	製造者及び製品表示マーク一覧表
資料 11	納入報告書(水道用資材)
資料 12	使用資材届(給水装置材料)
資料 13	納入報告書(給水装置材料)
資料 14	使用資材届(地盤改良材)
資料 15	チャート紙(見本)
資料 16	地盤改良注入報告書(薬液注入)
資料 17	地盤改良注入報告書(高圧噴射攪拌杭)

監督員	係長	課・所・場長
-----	----	--------

令和 年 月 日受付 印

使 用 資 材 届

令和〇〇年〇〇月〇〇日

広島市水道事業管理者

受注者 住所、商号又は名称、代表者氏名、電話番号

広島市中区基町 9 番 32 号
株式会社 水道建設工業
代表取締役 水道 太郎
082-〇〇〇-〇〇〇

下記のとおり使用資材を届け出ます。

記

工 事 名	〇〇一丁目配水管〇〇工事		
工 事 場 所	広島市〇〇〇区〇〇一丁目		
工 期	平成〇〇年〇〇月〇〇日 から 平成〇〇年〇〇月〇〇日 まで		
品 目	規格・寸法	納入業者名及びメーカー名	摘 要
密粒度アスファルト混合物	再生 20、13 mm	〇〇合材工場	舗装用
アスファルト乳剤	PK-3	〇〇合材工場	〃
地下埋設物標示ピン	水道管	(株)〇〇 (株)〇〇	〃
		※ 納入業者名とメーカー名が異なる場合は、それぞれ記入する。	

《 添付資料 1-1 》

※ 使用するアスファルト混合物に下線(赤線)を記入。

認定番号 8734-008-0403

認 定 証

殿

アスファルト混合物事前審査制度による審査の結果、
貴混合所の下記アスファルト混合物を認定します。

平成 3 月 20 日

財団法人 道路保全技術センター
理 事 長 多 田



記

番号	認定混合物記号	アスファルト混合物の名称 (使用アスファルトの種類)		最大粒径	突固回数
1	V-09W	排水性開粒度アスファルト混合物	高粘度改質型	13 mm	50 回
2	V-10	透水性開粒度アスファルト混合物	スアス・60~80	13 mm	50 回
3	R-01	再生・アスファルト安定処理混合物	再生・60~80	20 mm	50 回
4	R-02	再生・粗粒度アスファルト混合物	再生・60~80	20 mm	50 回
5	R-02A	再生・粗粒度アスファルト混合物	再生・60~80	20 mm	75 回
6	R-02W	再生・粗粒度アスファルト混合物	再生・改質Ⅱ型	20 mm	75 回
7	R-03	再生・密粒度アスファルト混合物	再生・60~80	20 mm	50 回
8	R-04	再生・密粒度アスファルト混合物	再生・60~80	13 mm	50 回
9	R-05	再生・細粒度アスファルト混合物	再生・60~80	13 mm	50 回
10	以下余白				
11					
12					
13					
14					
15					

有 効 期 間 平成 年 4 月 1 日 ~ 平成 年 3 月 31 日

様式-3 添付資料 付

《 添付資料 1-2 》

- ※ 使用する全ての認定混合物を添付。
 ※ 舗装復旧仕様との整合性をチェック。
 【チェック項目】
- ・ 使用する混合物は、一般か、再生か。
 - ・ 最大粒径は、合致しているか。
 - ・ 突固め回数は、交通ランクと合致しているか。

様式-3 添付資料

事前審査認定アスファルト混合物(再生混合物)総括表



認定番号	8734-008-0403	混合所名			
認定証混合物番号 7 / 9					
混合物記号	R-03	有効期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 3月31日		
混合物の名称	再生・密粒度アスファルト混合物				
最大粒径	20 mm	突固め回数	50 回		
アスファルトの種類	再生・60~80	配合設計年月	平成 年 10月		
混合物製造方法	ドラムミキサー方式 <input type="checkbox"/> 併設加熱方式 <input type="checkbox"/> 間接加熱方式 <input type="checkbox"/>				
使用骨材の室内配合					
種別	骨材名	配合比 (%)	種別	骨材名	配合比 (%)
新骨材	C-1		再生骨材	石粉	2.1
	4号				
	5号	19.0			
	6号	19.0		R13-0	30.0
	7号	4.9			
	S C	9.5			
	砂	9.5			
砂	6.0	計	100.0		
現場配合					
種別	配合比 (%)	計量値 (kg)	種別	配合比 (%)	計量値 (kg)
			R13-0	30.0	600
設計アス量	(5.4)	—			
旧アス量	(1.57)	—			
高針入度アス	1.64	33			
新アスファルト	2.19	44			
改質材*					
計	100.0	2,000	計	100.0	2,000
ふるい目					
通過質量百分率	37.5 mm		室内配合	現場配合	確認抽出試験
	31.5 mm				
	26.5 mm	100.0	100.0	100.0	100
	19.0 mm	98.1	98.3	99.4	95~100
	13.2 mm	82.5	82.5	82.4	75~90
	4.75 mm	55.0	55.0	54.1	45~65
	2.36 mm	42.5	42.5	41.1	35~50
	600 μm	23.2	23.6	23.1	18~30
	300 μm	15.6	15.3	15.9	10~21
	150 μm	8.6	8.3	8.9	6~16
75 μm	6.0	6.0	6.5	4~8	
室内配合					
全アスファルト量 (%)	設計 5.71	現場配合 5.40	確認試験 抽出 5.23	基準値	
旧アスファルト量 (%)	1.66	1.57	—	—	
高針入度アス量 (%)	1.73	1.64	—	—	
新アスファルト量 (%)	2.32	2.19	—	—	
改質材量* (%)			—	—	
マシヤル特性値	密度 (g/cm³)	2.419	2.420	2.420	—
	理論密度 (g/cm³)	2.514	2.514	—	—
	空隙率 (%)	3.8	3.7	3.7	3~6
	飽和度 (%)	76.8	77.4	77.2	70~85
	安定度 (kN)	10.35	10.46	13.58	4.90以上
	フロー値 (1/100cm)	35.0	36.0	35.0	20~40
	残留安定度 (%)	—	91.4	—	75以上
基準密度 (g/cm³)	—	2.420	—	—	
動的安定度 (回/mm)	—	1649	3235	500以上	
すりへり量 (cm²)	—	—	—	—	
透水計数 (cm/sec)	—	—	—	—	
混合物出荷目標温度	160 ± 10 °C				

*: プラントミックスタイプの改質材を使用の場合、現場配合の配合比及び計量値は、その固形分を表示してある。

《 添付資料 2 》

【チェック項目】

- ・ 製造日から 60 日経過していないか。

平成 年 12 月 8 日

道路用アスファルト乳剤試験成績表

御中

毎々格別のお引立を賜り有難く御礼申し上げます。
 弊社で製造いたしております道路用アスファルト乳剤の
 品質は下記の通りであります。

試験室

種 類	PK-3 (JIS K 2208:2000)
試料採取年月日	平成 年 12 月 1 日
製造年月日	平成 年 12 月 1 日

試験項目		試験成績	規格
エングラード (25℃)		2	1～6
ふるい残留分 (%) (1.18 mm)		0.1	0.3以下
付着度		2/3以上	2/3以上
粒子の電荷		陽 (+)	陽 (+)
蒸発残留分 (%)		50	50以上
蒸 発 残 留 物	針入度 (25℃)	135	100～300
	トルエン可溶分 (質量%)	99.99	98以上
貯蔵安定度 (24時間) (質量%)		0.1	1以下
※備考			

監督員	係 長	課・所・場長

令和 年 月 日受付 ㊟

納 入 (納入書・報告書・~~成績表~~)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

広島市水道事業管理者

受注者 住所、商号又は名称、代表者氏名、電話番号

広島市中区基町 9 番 32 号
株式会社 水道建設工業
代表取締役 水道 太郎
082-〇〇〇-〇〇〇

工事名 〇〇一丁目配水管〇〇工事

上記工事のアスファルト混合物ほかの納入 (納入書・報告書・~~成績表~~) を別紙のとおり提出します。

注) 不要な文字は抹消すること。

《 添付資料 2 》

No 051129-041 001

年 月 日	年 月 日	出荷時温度 164 ℃
時 刻	12:39	到着時温度 ℃
車 番	1934	運送会社名
客 先 名 殿		
現 場 名		
商 品 名 RC密粒AC (13)		
(総重量)		
(空車重量) 工場渡 受領印		
数 量	2.00 t	担当者
累 計 数 量	2.00 t	
摘要		

(お願い) 事故防止のため、タンクの誘導をお願いします。

No 051129-041 002

年 月 日	年 月 日	出荷時温度 165 ℃
時 刻	14:45	到着時温度 ℃
車 番	1934	運送会社名
客 先 名 殿		
現 場 名		
商 品 名 RC密粒AC (13)		
(総重量)		
(空車重量) 工場渡 受領印		
数 量	2.00 t	担当者
累 計 数 量	4.00 t	
摘要		

(お願い) 事故防止のため、タンクの誘導をお願いします。

出 荷 伝 票

No 051129-026 001

年 月 日	年 11 月 29 日	出荷時温度 164 ℃
時 刻	9:59	到着時温度 ℃
車 番	1934	運送会社名
客 先 名 殿		
現 場 名		
商 品 名 RC密粒AC (20)		
(総重量)		
(空車重量) 工場渡 受領印		
数 量	2.00 t	担当者
累 計 数 量	2.00 t	
摘要		

(お願い) 事故防止のため、タンクの誘導をお願いします。

出 荷 伝 票

No 051129-505 001

年 月 日	年 月 日	出荷時温度 ℃
時 刻	9:59	到着時温度 ℃
車 番	1934	運送会社名
客 先 名 殿		
現 場 名		
商 品 名 乳剤ドラム缶		
(総重量)		
(空車重量) 工場渡 受領印		
数 量	1.00 本	担当者
累 計 数 量	1.00 本	
摘要 PK-3		

(お願い) 事故防止のため、タンクの誘導をお願いします。

《 添付資料 3 》

納 品 書 < 直 送 >

年 0 月 12 日 No 3106

御契約先名

殿

○ 現場名

J-V

得意コード	現場コード	営業	事務	売上区分	売上税目	出荷年月日	送り状	工事番号
7003	043	007	022			年 10 月 08 日		

品 名	規 格	数 量	単 位	税 抜 単 価	金 額
水道標示マーク		11	ヶ		
合 計					
消費税額					
税込み金額					

《 表 紙 》

【記入例】

施工様式－ 2 6

監督員	係 長	課・所・場長

令和 年 月 日受付 ㊟

アスファルトの現場密度測定試験（~~納入書・報告書・成績表~~）

令和〇〇年〇〇月〇〇日

広島市水道事業管理者

受注者 住所、商号又は名称、代表者氏名、電話番号

広島市中区基町 9 番 32 号
株式会社 水道建設工業
代表取締役 水道 太郎
082-〇〇〇-〇〇〇

工事名 〇〇一丁目配水管〇〇工事

上記工事の アスファルトの現場密度測定試験（~~納入書・報告書・成績表~~）を別紙のとおり提出します。

注）不要な文字は抹消すること。

整理番号		
試 験 報 告 書		
試 験 名 :	切 取 供 試 体 試 験 結 果 報 告 書	
工 事 名 :		
2021年11月		
報告者		

《 表 紙 》

【記入例】

施工様式－ 2 6

監督員	係 長	課・所・場長

令和 年 月 日受付 ㊤

現場透水試験 (~~納入書・報告書・成績表~~)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

広島市水道事業管理者

受注者 住所、商号又は名称、代表者氏名、電話番号

広島市中区基町 9 番 32 号
株式会社 水道建設工業
代表取締役 水道 太郎
082-〇〇〇-〇〇〇

工事名 〇〇一丁目配水管〇〇工事上記工事の 現場透水試験 (~~納入書・報告書・成績表~~) を別紙のとおり提出します。

注) 不要な文字は抹消すること。

		アスファルト舗装の現場透水試験					
工 事 名				測定年月日		令和3年5月6日	
				業 者 名			
				試 験 者			
測定 番号	測 点	車 種	400cc流下時間 (sec)		15秒当り透水量 (mL/15秒)	備 考 (目視観察状況等)	
1	No. 10付近	歩道	①	4.77	1258		
			②	4.98	1205		
			③	5.08	1181		
			平均	4.94	1215		
2	No. 2付近	歩道	①	4.56	1316		
			②	4.67	1285		
			③	4.86	1235		
			平均	4.70	1277		
3			①				
			②				
			③				
			平均				
4			①				
			②				
			③				
			平均				
5			①				
			②				
			③				
			平均				

備 考 :

車道舗装 : 15秒当り透水量 1000mL 以上

歩道舗装 : 15秒当り透水量 300mL 以上

監督員	係長	課・所・場長
-----	----	--------

令和 年 月 日受付 印

使 用 資 材 届

令和〇〇年◇◇月△△日

広島市水道事業管理者

受注者 住所、商号又は名称、代表者氏名、電話番号

広島市中区基町 9 番 32 号
株式会社 水道建設工業
代表取締役 水道 太郎
082-〇〇〇-〇〇〇

下記のとおり使用資材を届け出ます。

記

工 事 名	〇〇一丁目配水管〇〇工事		
工 事 場 所	広島市〇〇〇区〇〇一丁目		
工 期	令和〇〇年〇〇月〇〇日 から 令和〇〇年〇〇月〇〇日 まで		
品 目	規格・寸法	納入業者名及びメーカー名	摘 要
再生粒調碎石	RM-30	◇◇建材(株)	路盤用
再生碎石	RC-40	◇◇建材(株)	路盤用、基礎用
再生砂		◇◇建材(株)	透水性舗装用

※ 納入業者名とメーカー名が異なる場合は、それぞれ記入する。

《 添付資料 1-1 》

骨 材 試 験 成 績 表

工 事 名

骨材名称 再生粒度調整 RM-30

《チェック項目》(品質は特記仕様書に記載されているので、常に各項目の基準値を確認すること)

1. 品質の基準

塑 性 指 数	修 正 CBR	すりへり減量
4 以下	8 0 %以上	5 0 %以下

2. 粒度範囲

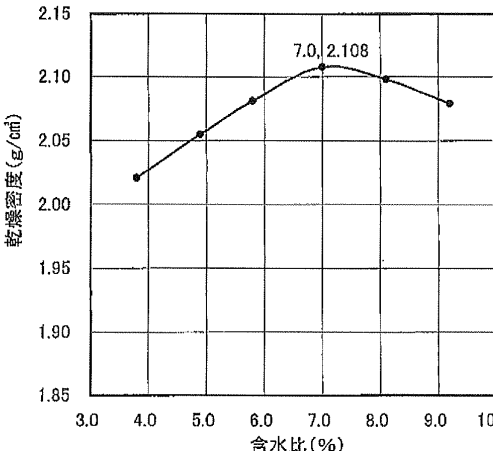
ふるい目 の開き	ふるいを通るものの質量百分率 (%)							
	53mm	37.5mm	31.5mm	19mm	4.75mm	2.36mm	425 μ m	75 μ m
RM-40	100	95~100	—	60~90	30~65	20~50	10~30	2~10
RM-30	—	100	95~100	55~85	15~45	5~30	10~30	2~10

《 添付資料 1-2 》

土 質 試 験 成 績 表			
平成 年 1 月 2 7 日			
様		一般財団法人 広島県環境保健協会 理事長	
ご依頼の材料試験結果は下記のとおりです。			
材 料 名	RM-30	使 用 目 的	
産 地			
工 事 名	一般		
使 用 場 所	広島市内一円		
試 験 担 当 者	材料試験室 中尾喜之		Tel (082)-249-9535

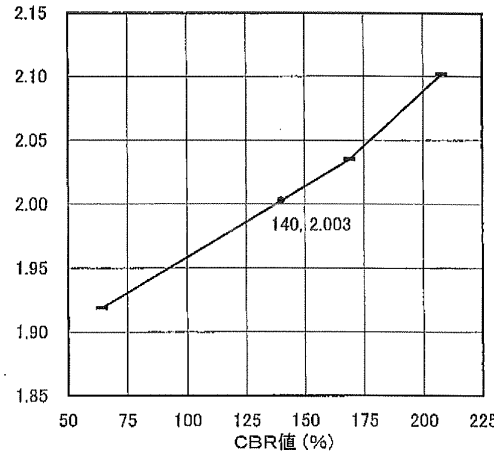
ふるい分け試験			試 験 項 目			実 測 値	規 格 値
粒 径	通過量 (%)	粒度範囲					
37.5 (mm)	100	100	自然含水比 (%)	1.1	—		
31.5	100	100~95	最適含水比 (%)	7.0	—		
19.0	66	90~60	最大乾燥密度 (g/cm ³)	2.108	—		
4.75	39	65~30	修正CBR (%)	140	80以上		
2.36	27	50~20	液性限界 (%)	測定不能	—		
425 (μm)	14	30~10	塑性限界 (%)	測定不能	—		
75	5	10~2	塑性指数	NP	4 以下		
PASS			密 度 (g/cm ³)	表 乾	2.54	—	
				絶 乾	2.45	—	
			吸 水 量 (%)	3.57	—		
			すり減り減量 (%)	16.6	50 以下		
			安定性損失量 (%)	11.0	20 以下		

・ 締めめ曲線



含水比 (%)	乾燥密度 (g/cm³)
4.0	2.02
5.0	2.05
6.0	2.08
7.0	2.108
8.0	2.10
9.0	2.08

・ CBR-乾燥密度曲線



CBR値 (%)	乾燥密度 (g/cm³)
75	1.92
140	2.003
175	2.04
225	2.10

受付番号 75-25-08340 -1/2

《 添付資料 1-3 》

○ 突固め試験結果

・突固め条件

測 定 番 号	1	2	3	4	5	6	モ ー ル ド 内 径	15cm
湿潤密度(g/cm^3)	2.098	2.156	2.202	2.256	2.268	2.270	ランマ重量	4.5kg
乾燥密度(g/cm^3)	2.021	2.055	2.081	2.108	2.098	2.079	落下高さ	45cm
含 水 比 (%)	3.8	4.9	5.8	7.0	8.1	9.2	突固め回数	92回(3)

○ CBR試験結果

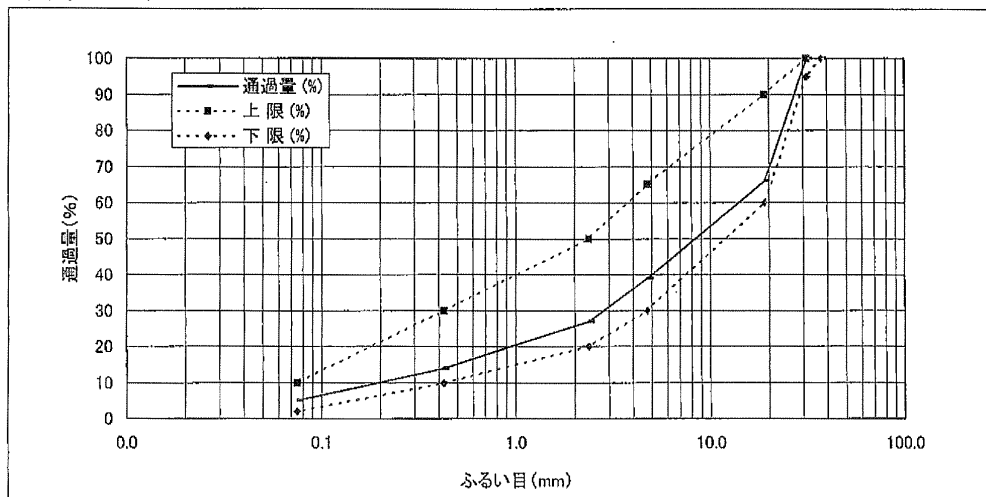
*試験条件:4日間浸水

突固め回数	乾 燥 密 度 (g/cm^3)	含 水 比 (%)	CBR平均 (%)	修 正 C B R (%)
92	2.102	8.3	208	<u>140</u>
42	2.035	9.0	169	
17	1.919	9.7	64	

○ ふるい分け試験結果

呼び寸法 (mm)			37.5	31.5	19	4.75	2.36	0.425	0.075	合 計
残留量 (g)			0.0	0.0	1779.8	3161.1	3775.3	4460.7	4935.1	5194.6
残留量 (%)			0	0	34	61	73	86	95	100
通過量 (%)			100	100	66	39	27	14	5	0

・粒度分布曲線



受付番号 75-25-08340 -2/2

《添付資料 2-1》

骨材試験成績表

工事名

骨材名称

RC-40

《チェック項目》(品質は特記仕様書に記載されているので、常に各項目の基準値を確認すること)

1. 品質の基準

塑性指数	修正 CBR	すりへり減量
6 以下	20%以上	50%以下

2. 粒度範囲

ふるい目の開き	ふるいを通るものの質量百分率(%)							
	53mm	37.5mm	31.5mm	19mm	4.75mm	2.36mm	425 μ m	75 μ m
RC-40	100	95~100	—	50~80	15~50	5~25	—	—
RC-30	—	100	95~100	55~85	15~45	5~30	—	—

《 添付資料 2-2 》

土 質 試 験 成 績 表			
平成 年 10 月 3 日			
様		一般財団法人 広島県環境保健協会 理事長	
ご依頼の材料試験結果は下記のとおりです。			
材 料 名	RC-40	使 用 目 的	
産 地			
工 事 名	一般工事		
使 用 場 所	広島市内一円		
試 験 担 当 者	材料試験室 中尾喜之		Tel (082)-249-9535

ふるい分け試験			試験項目		
粒 径	通過量 (%)	粒度範囲	実 測 値	規 格 値	
			自然含水比 (%)	3.0	—
			最適含水比 (%)	10.1	—
			最大乾燥密度 (g/cm ³)	1.797	—
			修正 CBR (%)	72	20以上
			液性限界 (%)	測定不能	—
			塑性限界 (%)	測定不能	—
			塑性指数	NP	6以下
			密度 (g/cm ³)	表 乾	2.33
				絶 乾	2.15
			吸 水 量 (%)	8.08	—
			すり減り減量 (%)	30.4	50以下

・ 締固め曲線

含水比 (%)	乾燥密度 (g/cm ³)
7.0	1.73
8.0	1.75
9.0	1.78
10.1	1.797
11.0	1.77
12.0	1.74

・ CBR-乾燥密度曲線

CBR値 (%)	乾燥密度 (g/cm ³)
50	1.61
72	1.707
140	1.79

受付番号 75-25-04054 -1/2

《 添付資料 2-3 》

○ 突固め試験結果

・突固め条件・

測 定 番 号	1	2	3	4	5	6	モールド内径	15cm
湿潤密度(g/cm^3)	1.855	1.893	1.943	1.979	1.966	1.946	ランマ重量	4.5kg
乾燥密度(g/cm^3)	1.730	1.753	1.781	1.797	1.768	1.736	落下高さ	45cm
含水比 (%)	7.2	8.0	9.1	10.1	11.2	12.1	突固め回数	92回(3)

○ CBR試験結果

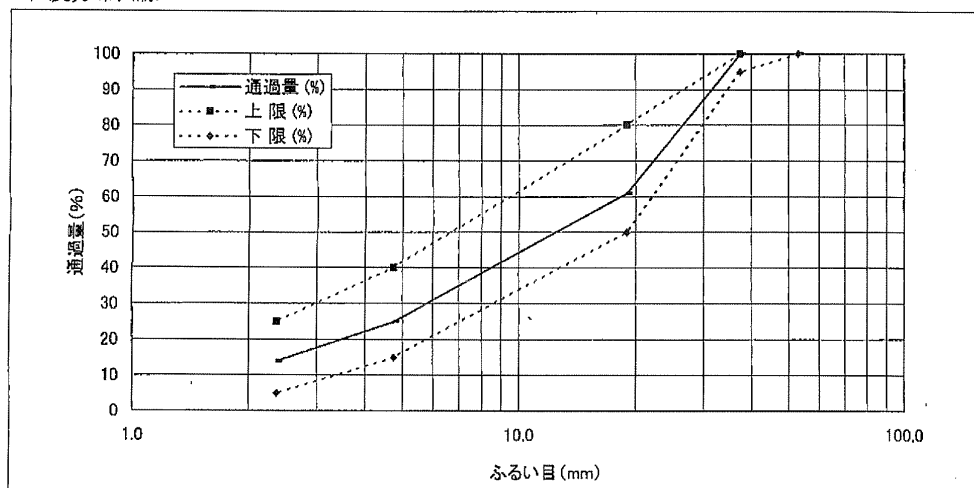
*試験条件:4日間浸水

突固め回数	乾燥密度 (g/cm^3)	含水比 (%)	CBR平均 (%)	修正 C B R (%)
92	1.791	13.5	124	72
42	1.716	12.5	74	
17	1.609	12.9	46	

○ ふるい分け試験結果


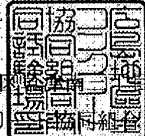
呼び寸法 (mm)					53	37.5	19	4.75	2.36	合 計
残留量 (g)					0.0	0.0	2081.7	3989.2	4582.2	5326.6
残留量 (%)					0	0	39	75	86	100
通過量 (%)					100	100	61	25	14	0

・粒度分布曲線



受付番号 75-25-04054 -2/2

《 添付資料 3-1 》

 ZENNAMA 認定番号 第 47 号		1 頁 / 総 2 頁 受付番号 14141
<h2>細 骨 材 試 験 結 果 一 覧 表</h2>		
<div style="background-color: black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div> 殿		
依頼者申請事項		
依 頼 者	<div style="background-color: black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div>	
住 所	<div style="background-color: black; width: 150px; height: 15px; display: inline-block;"></div>	
試 験 品 目	細骨材	
骨 材 種 類	再生砂	
産 地	広島市安佐北区安佐町筒瀬字椽ノ平	
試 料 採 取 日	平成 年 7 月 1 日	
試 料 採 取 場 所	クッション砂置場	
試 料 採 取	代表試料約 60kg	
試験結果は別紙のとおりであることを証明します。		
平成 年 7 月 15 日		
広島市西區 番十二号 広島地区生コンクリート共同組合 共同試験場		 場 長 <div style="background-color: black; width: 50px; height: 15px; display: inline-block;"></div>
本報告書は依頼された試験品目に対する結果を示すものです。 事前の承認なしに本報告書のカラーコピー及び一部分のみを複製して使用することを禁じます。		

《 添付資料 3-2 》

2 頁／総 2 頁
受付番号 14141

試験依頼日 平成 年 7 月 1 日
骨 材 種 類 再生砂
試 験 日 平成 年 7 月 3 日～平成 年 7 月 15 日
試 験 結 果

項目	報告書番号	試験方法	試験値
表乾密度 (g/cm³)	E-26050	JIS A 1109:2006 細骨材の密度及び吸水率試験方法	2.57
絶乾密度 (g/cm³)			2.51
吸水率 (%)			2.39
微粒分量 (%)	E-26047	JIS A 1103:2014 骨材の微粒分量試験方法	2.2
単位容積質量 (kg/L)	E-26048	JIS A 1104:2006 骨材の単位容積質量及び実積率試験方法	1.54
実積率 (%)			61.2
有機不純物	E-26049	JIS A 1105:2007 細骨材の有機不純物試験方法	淡い
安定性 (%)	S-26025	JIS A 1122:2014 硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験方法	3.9
粘土塊量 (%)	E-26051	JIS A 1137:2014 骨材中に含まれる粘土塊量の試験方法	0.45
石炭・亜炭などで 密度 1.95g/cm³ の 液体に浮くもの (%)	E-26052	JIS A 1141:2007 骨材に含まれる密度 1.95g/cm³ の液体に浮く粒子の試験方法	0.0
塩化物量 (%) (NaCl として)	E-26053	JIS A 5002.5.5:2003 構造用軽量コンクリート骨材	0.000
粒形判定実積率 (%)	E-26054	JIS A 5005.6.6:2009 コンクリート用砕石及び砕砂	57.0
粒度	E-26046	JIS A 1102:2014 骨材のふるい分け試験方法	
		各ふるいを通過する質量分率 (%)	
		ふるいの呼び寸法 (mm)	
		10 5 2.5 1.2 0.6 0.3 0.15 0.075 受皿 粗粒率	
		100 100 98 75 47 25 11 3 0 2.44	

《チェック項目》

(品質は特記仕様書「公共建築工事標準仕様書」に記載しているクッション材の規格値を確認すること)

品質基準の項目

最大粒径	7.5 μmふるい通過量	粗粒率 (FM)
4.75 mm以下	5%以下	1.5～5.5

監督員	係 長	課・所・場長

令和 年 月 日受付 ㊞

納 入 (納入書・報告書・成績表)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

広島市水道事業管理者

受注者 住所、商号又は名称、代表者氏名、電話番号

広島市中区基町 9 番 32 号
株式会社 水道建設工業
代表取締役 水道 太郎
082-〇〇〇-〇〇〇

工事名 〇〇一丁目配水管〇〇工事

上記工事の 粒調碎石ほかの納入 (納入書・報告書・成績表) を別紙のとおり提出します。

注) 不要な文字は抹消すること。

《 添付資料 2 》

納 品 書

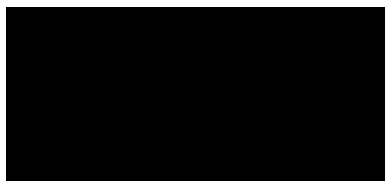
112442

年 月 日

御中

工事名
車
番

右の通り納入致しました



品 名	品 名
C - 40	真 砂 土
M - 30	卸 真 砂 土
15 - 5	
40 - 20	表 土
50 - 30	残 土
80 - 50	残 土 引 取
150 - 50	転 石
	転 石 引 取
RC - 40	アスファルトガラ
RC - 30	アスファルトガラ引取
	コンクリートガラ
埋 戻 土	コンクリートガラ引取
あ ら め 砂	抜根・樹木・草・葉
左 官 砂	抜根・樹木・枝葉引取
ク ッ シ ョ ン 砂	運搬
加 工 砂	
水 砕 ス ラ グ	常 用
数 (m ³ ・t・H・台) 量	累 (m ³ ・t・H・台) 計
3.0	
	受 領 印

納 品 書

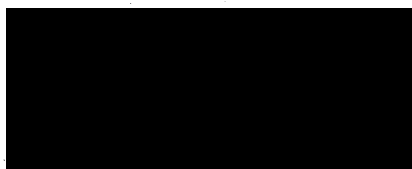
09234

年 月 日

御中

工事名
車
番

右の通り納入致しました



品 名	品 名
C - 40	残 土
M - 30	残 土 引 取
15 - 5	軟 岩 ・ 硬 岩
40 - 20	軟 岩 ・ 硬 岩 引 取
	アスファルトガラ
RC - 40	アスファルトガラ引取
RC - 30	コンクリートガラ
RM - 30	コンクリートガラ引取
	抜根・樹木・草(表土)
ク ッ シ ョ ン 砂	抜根・樹木・草(表土)引取
加 工 砂	運搬
吹 付 砂	
水 砕 ス ラ グ	
真 砂 土	
埋 戻 土	
	常 用
数 (m ³ ・t・H・台) 量	累 (m ³ ・t・H・台) 計
1.4	
	受 領 印

納 品 書

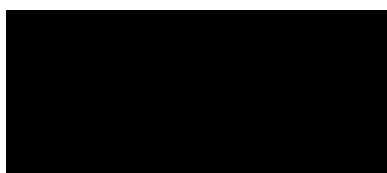
112401

年 月 日

御中

工事名
車
番

右の通り納入致しました



品 名	品 名
C - 40	真 砂 土
M - 30	卸 真 砂 土
15 - 5	
40 - 20	表 土
50 - 30	残 土
80 - 50	残 土 引 取
150 - 50	転 石
	転 石 引 取
RC - 40	アスファルトガラ
RC - 30	アスファルトガラ引取
	コンクリートガラ
埋 戻 土	コンクリートガラ引取
あ ら め 砂	抜根・樹木・草・葉
左 官 砂	抜根・樹木・枝葉引取
ク ッ シ ョ ン 砂	運搬
加 工 砂	
水 砕 ス ラ グ	常 用
数 (m ³ ・t・H・台) 量	累 (m ³ ・t・H・台) 計
5.5	
	受 領 印

《 表 紙 》

【記入例】

施工様式－26

監督員	係 長	課・所・場長

令和 年 月 日受付 ㊟

路盤の現場密度測定試験 (~~納入書・報告書・成績表~~)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

広島市水道事業管理者

受注者 住所、商号又は名称、代表者氏名、電話番号

広島市中区基町9番32号
株式会社 水道建設工業
代表取締役 水道 太郎
082-〇〇〇-〇〇〇

工事名 〇〇一丁目配水管〇〇工事

上記工事の 路盤の現場密度測定試験 (~~納入書・報告書・成績表~~) を別紙のとおり提出
します。

注) 不要な文字は抹消すること。

様式 (26)

現場密度測定試験 (砂置換法) (JIS A 1214)

工事名

工 種

舗装工

元 請

測 点

D号工 No.22

測定日

平成 年8月21日

I 試験用砂の単位体積重量の検定

測定番号	1	2	3	
ジャーとビクメータトップに砂を満たした重量 m_3 g	9446	9708	9775	試験用砂の平均 単位体積重量 ρ_{ds} 1.231 g/cm ³
測定器全体の重量 m_1 g	1676	1676	1676	
満たした砂の重量 $m_4 = m_3 - m_1$ g	7770	8032	8099	
ジャーとビクメータトップとの体積 v_1 cm ³	6476	6472	6471	
試験用砂の単位体積重量 ρ_{ds} g/cm ³	1.200	1.241	1.252	

II ロット (ベースプレートを含む) を満たすに要する重量検定

測定番号	1	2	3	
ジャーとビクメータトップに砂を満たした重量 m_3 g	9446	9708	9775	ロットを満たすに要する 砂の平均重量 m_6 1240 g
ロットを満たした砂を除きジャーに残った砂の重量 m_5 g	8209	8470	8529	
ロットを満たした砂の重量 $m_6 = m_3 - m_5$ g	1237	1238	1246	

III 試験孔から取り出した土の湿潤重量、含水比および乾燥重量の測定

湿潤土及び乾燥土重量の測定				含水比の測定			
1	容器の番号	1		試料No.1			
				W a	2410	W b	2237
				W b	2237	vat	597
	湿潤土の重量 m_7 g	1813		w	173	m_7	1813
	乾燥土の重量 m_0 g	1640				m_0	1640
				含水比 10.5			
2	容器の番号	2		試料No.2			
				W a	2344	W b	2162
				W b	2162	vat	585
	湿潤土の重量 m_7 g	1759		w	182	m_7	1759
	乾燥土の重量 m_0 g	1577				m_0	1577
				含水比 11.5			
3	容器の番号	3		試料No.3			
				W a	2246	W b	2057
				W b	2057	vat	598
	湿潤土の重量 m_7 g	1648		w	189	m_7	1648
	乾燥土の重量 m_0 g	1459				m_0	1459
				含水比 13.0			
				平均含水比 11.7			

IV 試験孔の体積の測定

試験孔番号	1	2	3	
ジャーとビクメータトップに砂を満たした重量 m_3' g	9787	9664	9650	最大乾燥密度 1.940 g/cm ³ 最適含水比 10.2 %
ジャーに残った砂の重量 m_8 g	7492	7401	7455	
試験孔及びロットに入った砂の重量 $m_9 = m_3' - m_8$ g	2295	2263	2195	
試験孔に入った砂の重量 $m_{10} = m_9 - m_6$ g	1055	1023	955	
試験孔の体積 $v_0 = m_{10} / \rho_{ds}$	857	831	776	

V 土の単位体積重量

試験孔番号	1	2	3	平均	締固め度 %
土の湿潤単位体積重量 $\rho_t = m_7 / v_0$ g/cm ³	2.115	2.117	2.124	2.119	$C_d = \rho_d / \rho_{dmax} * 100$
土の乾燥単位体積重量 $\rho_d = m_0 / v_0$ g/cm ³	1.914	1.898	1.881	1.897	

監督員	係長	課・所・場長

令和 年 月 日受付 印

使 用 資 材 届

令和〇〇年◇◇月△△日

広島市水道事業管理者

受注者 住所、商号又は名称、代表者氏名、電話番号

広島市中区基町 9 番 32 号
株式会社 水道建設工業
代表取締役 水道 太郎
082-〇〇〇-〇〇〇

下記のとおり使用資材を届け出ます。

記

工 事 名	〇〇一丁目配水管〇〇工事		
工 事 場 所	広島市〇〇〇区〇〇一丁目		
工 期	令和〇〇年〇〇月〇〇日 から 令和〇〇年〇〇月〇〇日 まで		
品 目	規格・寸法	納入業者名及びメーカー名	摘 要
レディミスト コンクリート	24-8-40BB	△△コンクリート(株)	管防護工
鉄筋(SD345)	D19	(株)□□商会 (株)〇〇スチール	管防護工

《 添付資料 1-1 》

レディーミクストコンクリート配合計画書

殿

工事名称:



日本工業規格表示認証工場（認証番号TC0612004）

《 添付資料 1-2 》

JIS		JAPANESE INDUSTRIAL STANDARD	
日本工業規格		適合性認証書	
[Redacted]		殿	
工業標準化法第 19 条第 1 項に基づき認証マークの表示について下記のとおり認めます。			
認 証 番 号 :		TC 06 12 004	
認証取得者の氏名又は名称及び住所 :		[Redacted]	
認証に係る日本工業規格の番号及び名称 :		JIS A 5308 : レディーミクストコンクリート	
認 証 の 区 分 :		普通コンクリート	
認証に係る工場又は事業場の品質管理体制の基準 :		基準 A	
認証に係る工場又は事業場の名称及び所在地 :		名 称 : [Redacted] 所在地 : [Redacted]	
「認証に係る鉱工業品の名称」、「認証の範囲(種類又は等級)」、「認証マーク等の表示」、「付記事項の表示」及び「表示の方法」については附属書による。			
認 証 日 :		[Redacted] 年 12 月 3 日	
JTCCM		一般財団法人 建材試験センター	
Japan Testing Center for Construction Materials		理事長 [Redacted]	

《 添付資料 1-3-(1) 》

【チェック項目】

- ・ 呼び強度、粗骨材の最大寸法、スランプ、水セメント比、単位セメント量、空気量、セメントの種類は、設計図書と合致しているか。

レディーミクストコンクリート配合計画書 平成 年 月 7日 配合計画者名									
工 事 名 称 所 在 地 納 入 予 定 時 期 平成 年 11 月 27 日～平成 年 11 月 22 日 本配合の適用期間 3月11日～6月10日, 10月1日～12月10日, 標準配合。左記以外の期間は備考欄に記述。 コンクリートの打込み箇所									
配 合 の 設 計 条 件 呼び方 コンクリートの種類による記号 呼び強度 スランプ 又はスランプ フロー cm 粗骨材の最大寸法 mm セメントの種類による記号 普通 24 8 40 B B 指定事項 セメントの種類 呼び方欄に記載 空気量 - % 骨材の種類 使用材料欄に記載 軽量コンクリートの単位容積質量 - kg/m ³ 粗骨材の最大寸法 呼び方欄に記載 コンクリートの温度 - °C アルカリシリカ反応抑制対策の方法 A 水セメント比の目標値の上限 - % 骨材のアルカリ反応性による区分 使用材料欄に記載 単位水量の目標値の上限 - kg/m ³ 水の区分 使用材料欄に記載 単位水量の目標値の下限又は目標値の上限 - kg/m ³ 混和材料の種類及び使用量 使用材料及び配合表欄に記載 流動化後のスランプ増大量 - cm 塩化物含有量 - kg/m ³ 以下 呼び強度を保証する材齢 - 日									
使 用 材 料 セメント 生産者名 太平洋セメント株式会社 密度 g/cm ³ 3.04 Na ₂ Oeq % - 混和材① 製品名 - 種類 - 密度 g/cm ³ - Na ₂ Oeq % - 混和材② 製品名 - 種類 - 密度 g/cm ³ - Na ₂ Oeq % - 骨材 No. 種類 産 地 又 は 品 名 試験方法 粒の大きさの範囲 粗粒率又は実積率 密度 g/cm ³ 絶対乾燥 微粒分量の範囲 % 細① 砕砂 津久見市下青江新津久見鉾山 A 化学法 5mm以下 2.80 2.50 2.66 7.0±2.0 骨② 砕砂 広島市安佐北区安佐町筒瀬 A モルタルバー法 5mm以下 2.85 2.50 2.66 3.0±2.0 材③ - - - - - - - - - 粗① 砕石 広島市安佐北区安佐町筒瀬4005 A モルタルバー法 40～5mm 63.0 2.50 2.72 1.0±1.0 骨② - - - - - - - - - 骨③ - - - - - - - - - 材④ - - - - - - - - - 混和剤① フローリックスSV10 AE減水剤(標準形 I 種) Na ₂ Oeq 1.0 混和剤② 製品名 - 種類 - % - 混和剤③ 製品名 - 種類 - % - 細骨材の塩化物量 - % 水の区分 地下水・雨水 (ろが水) 目標スラッジ 固形分率 2.5 %									
配 合 表 kg/m ³ セメント 混 和 材 水 細 骨 材 粗 骨 材 混 和 剤 ① ② ① ② ③ ① ② ③ ④ ① ② ③ 271 - - 157 247 580 - 1083 - - - 1.63 - - 水セメント比 58 % 水 結 合 材 比 - % 細 骨 材 率 43.9 %									
備考 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合があります。修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤①の単位量のみ変更いたします。 夏期6月11日～9月30日 +20%、冬期12月11日～3月10日 -20% スラッジ固形分率は 0～2.5%の範囲で断り無しに変更する場合があります。 スラッジ固形分率が 1.0～2.5%のとき、混和剤①の単位量を +5%変更いたします。 細骨材①：細骨材②=30：70 (容積比)									

《 添付資料 1-3-(2) 》

配 合 計 算 書												
配 合 の 設 計 条 件												
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラブ又はスラブ・ジョイント	粗骨材の最大寸法	セメントの種類による記号							
	普通	24	8	40	BB							
指定事項												
(1)標準偏差(σ)	当工場の実績により $\sigma = 3.00 \text{ N/mm}^2$											
(2)配合強度(m)	$m = 0.85 \cdot S_L + 3 \cdot \sigma = 29.4 \text{ N/mm}^2$ $m = S_L + \frac{3 \cdot \sigma}{\sqrt{3}} = 29.2 \text{ N/mm}^2$ $m = S_L + 2 \cdot \sigma = 30.0 \text{ N/mm}^2$ よって $m = 30.0 \text{ N/mm}^2$											
(3)水セメント比(W/C)	$m = -16.20 + 27.10 \times C/W$ $W/C = 27.10 \div (30.0 + 16.20) \times 100 = 58 \%$ $W/C = 58 \%$											
(4)単位水量(W)	当工場の実績により $W = 157 \text{ kg/m}^3$											
(5)単位セメント量(C)	$C = W \div (W/C) \times 100 = 157 \div 58 \times 100 = 271 \text{ kg/m}^3$ $C_v = C \div \text{密度} = 271 \div 3.04 = 89 \text{ } \ell/\text{m}^3$											
(6)空気量(A)	$A = 4.5 \%$											
(7)単位粗骨材量(G)	当工場の実績により かさ容積 $= 0.632 \text{ m}^3/\text{m}^3$ 実積率 $= 63.0 \%$ $G_v = 0.632 \times 1000 \times 63.0 \div 100 = 398 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $G = G_v \times \text{表乾密度} = 398 \times 2.72 = 1083 \text{ kg/m}^3$											
(8)単位細骨材量(S)	$S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 689 = 311 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $S_{1v} = S_v \times 30.0 \% = 93 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $S_1 = S_{1v} \times \text{表乾密度} = 93 \times 2.66 = 247 \text{ kg/m}^3$ $S_{2v} = S_v \times 70.0 \% = 218 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $S_2 = S_{2v} \times \text{表乾密度} = 218 \times 2.66 = 580 \text{ kg/m}^3$											
(9)細骨材率(s/a)	$s/a = S_v \div (G_v + S_v) \times 100 = 43.9 \%$											
(10)単位混和剤量(Ad)	$Ad = C \times \text{添加率} = 271 \times 0.600 \% = 1.63 \text{ kg/m}^3$											
配 合 表 kg/m^3												
セメント	混 和 材	水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤		
	①	②	①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
271	—	—	157	247	580	—	1083	—	—	1.63	—	—
水セメント比	58 %		細 骨 材 率		43.9 %							
備 考												

《 添付資料 1-4》

【チェック項目】・・共通仕様書 2-8-2 1 参照

- ・ アルカリ骨材反応抑制効果の混合セメントを使用しているかどうか、スラグ混合比で確認する。(高炉セメントB種は、30～60%以上)

セメント試験成績表

馬場洋中
No801145

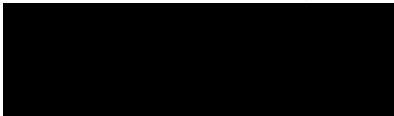
これを使用

太平洋セメント ㈱

平成 年 11 月 度

種 類 品 質		普通ポルトランドセメント JIS R 5210				早強ポルトランドセメント JIS R 5210				高 炉 セ メ ン ト B 種 JIS R 5211			
		試 験 成 績			J I S 規格値	試 験 成 績			J I S 規格値	試 験 成 績			J I S 規格値
		平均値	標準偏差	最大値 (最小値)		平均値	標準偏差	最大値 (最小値)		平均値	標準偏差	最大値 (最小値)	
密 度 g/cm ³			3.16 ✓	—	—		3.14 ✓	—	—		3.04 ✓	—	—
比表面積 cm ² /g			3350 ✓	82 ✓	—		4570 ✓	93 ✓	—		3790 ✓	81 ✓	—
凝 結	水 量 %		27.5	—	—		30.1	—	—		29.1	—	—
	始 発 h-min		2-32 ✓	—	(2-00)✓		1-49 ✓	—	(1-15)✓		3-11 ✓	—	(2-25)✓
	終 結 h-min		3-40 ✓	—	4-00 ✓		3-00 ✓	—	3-15 ✓		4-47 ✓	—	5-35 ✓
安 定 性		パット法	良 ✓	—	—	良 ✓	—	—	—	良 ✓	—	—	—
圧 縮 強 さ N/mm ²	1 d		—	—	—		24.8 ✓	1.60 ✓	—		—	—	—
	3 d		31.4 ✓	1.65 ✓	—		46.5 ✓	1.74 ✓	—		21.5 ✓	1.21 ✓	—
	7 d		46.4 ✓	1.71 ✓	—		57.6 ✓	1.81 ✓	—		36.7 ✓	1.73 ✓	—
	28d		63.7 ✓	1.80 ✓	—		66.2 ✓	1.93 ✓	—		63.8 ✓	1.94 ✓	—
水 和 熱 J/g		7 d	333 ✓	—	—		—	—	—		—	—	—
		28d	387 ✓	—	—		—	—	—		—	—	—
化 学 成 分 %	酸化マグネシウム		1.33 ✓	—	1.62 ✓		1.25 ✓	—	1.50 ✓		3.36 ✓	—	3.85 ✓
	三 酸 化 硫 黄		2.13 ✓	—	2.21 ✓		2.92 ✓	—	3.32 ✓		2.04 ✓	—	2.20 ✓
	強 熱 減 量		2.19 ✓	—	2.44 ✓		1.25 ✓	—	1.54 ✓		1.81 ✓	—	2.19 ✓
	全 アルカリ		0.44 ✓	—	0.50 ✓		0.47 ✓	—	0.49 ✓		—	—	—
	塩化物イオン		0.014 ✓	—	0.024 ✓		0.011 ✓	—	0.014 ✓		0.009 ✓	—	—
備 考													
試験方法はJIS R 5201、JIS R 5202、JIS R 5203及びJIS R 5204による。 28 d 圧縮強さ及び28 d 水和熱は前月度の値を示す。													
全アルカリの最大値のうち直近6ヶ月の最大の値													
普通ポルトランドセメント 0.59 %													
早強ポルトランドセメント 0.55 %													
高炉セメントB種													
ベースセメントの全アルカリ 0.44 % ✓													
高炉スラグの分量 40～45 % ✓													

お問い合わせその他のご連絡先



《 添付資料 1-5》

■ 骨材試験成績書 ■									
					平成 年11月度				
		産地品名			骨材名称				
骨材①	広島市安佐北区安佐町筒瀬			砕砂					
骨材②	津久見市下青江新津久見鉾山			石灰砕砂					
骨材③	広島市安佐北区安佐町筒瀬2005			砕石2005					
骨材④	広島市安佐北区安佐町筒瀬4005			砕石4005					
試験項目		骨材①	骨材②	骨材③	骨材④	ふるい分け試験 (通過率%)			
最大寸法(mm)		5	5	20	40	ふるい(mm)	細骨材合成	砕石2005	砕石4005
表乾密度 (g/cm³)		2.66	2.66	2.72	2.72	150			
絶対密度 (g/cm³)		2.62	2.63	2.70	2.70	100			
吸水率 (%)		1.41	1.19	0.57	0.54	80			
実積率 (%)		-	-	59.5	63.3	60			
粒形判定実積率 (%)		57.1	56.9	59.6	-	50		100	100
微粒分量 (%)		4.4	7.5	0.7	0.8	40		100	99
アルカリ反応性		A	A	A	A	30		100	85
すりへり減量 (%)		-	-	10.8	10.6	25		100	71
安定性 (%)		1.0	1.9	2.0	2.0	20		99	52
						15		72	39
						10	100	38	21
						5	100	3	2
						2.5	92	0	
						1.2	68		
						0.6	41		
						0.3	15		
						0.15	5		
						粗粒率	2.79	6.60	7.26

粒 度 曲 線

細骨材合成

砕石2005

砕石4005

ふるいの公称目開き (mm)

備考:

《 添付資料 1-6》

※ 破 砂

副本

総数 1 頁

骨材のアルカリシリカ反応性試験成績報告書

識別番号 025-10022

発行日 年 10 月 16 日

1. 顧客の名称 大分太平洋鉱業株式会社 殿
及び住所 大分県津久見市下青江3700番地
2. 品 名 石灰石砕石及び砕砂
3. 試験方法 JIS A 1145:2007 「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法（化学法）」 8.3.3 吸光光度法による
4. 試料の受領日 年 10 月 5 日

【認定試験項目】

5. 依頼者申請事項	
産 地	大分県津久見市下青江新津久見鉱山
試料採取年月日	年 10 月 4 日
採取場所	大分県津久見市下青江新津久見鉱山
備考	立会人： 採取者： 砕石2005を試料とした。

6. 試験結果					
試験年月日	年 10 月 15 日 ～ 年 10 月 16 日				
試験結果	下記に示すとおり				
	No	1	2	3	平均値
アルカリ濃度減少量 (mmol/L)		31	32	31	31 ✓
溶解シリカ量 (mmol/L)		1	1	1	1 ✓
精度	アルカリ濃度減少量及び溶解シリカ量の3個の定量値は、いずれもその平均値との差が10%以内でなければならない、ただし、アルカリ濃度減少量及び溶解シリカ量とも、定量値が100mmol/L以下の場合には、平均値との差が10mmol/L以内であればよい。				
判定基準	骨材のアルカリシリカ反応性の判定は、測定項目における定量値の平均値を用いて行うものとし次による a) 溶解シリカ量(Sc)が10mmol/L以上で、アルカリ濃度減少量(Rc)が700mmol/L未満の範囲では、溶解シリカ量(Sc)がアルカリ濃度減少量(Rc)未満となる場合、この骨材を'無害'と判定し、溶解シリカ量(Sc)がアルカリ濃度減少量(Rc)以上となる場合、その骨材を'無害でない'と判定する b) 溶解シリカ量(Sc)が10mmol/L未満でアルカリ濃度減少量(Rc)が700mmol/L未満の場合、その骨材を'無害'と判定する c) アルカリ濃度減少量(Rc)が700mmol/L以上の場合は判定しない				
判定	無害✓				
備考					

承認署名者 (試験場長) :

- a. 事前の承認なしに、この報告書のカラーコピーまたは一部分のみを複製して使用することは禁じます
b. 本報告書の試験結果は、記載の品名についてのみ有効です
c. 顧客の要求事項については、「5. 依頼者申請事項」の欄に記入する

《 添付資料 1-7-(1) 》

※ 砕 石



1 頁 / 総 3 頁
受付番号 46
報告書番号 M-25003

【 副 本 】

骨材のアルカリシリカ反応性 (モルタルバー法) 試 験 結 果 報 告 書

殿

依頼者申請事項

依 頼 者

住 所

試 験 品 目 粗骨材

骨 材 種 類 砕石 2010 ✓

最 大 寸 法 20 mm

産 地 広島市安佐北区安佐町筒瀬 2158

岩 種 ホルンフェルス

試 料 採 取 日 平成 年 4 月 16 日

試 料 採 取 場 所 株式会社みどりの骨材製品ヤード

試 料 採 取 代表試料約 40kg を縮分し、約 25 kg とした。

試料採取立会者

試験結果は別紙のとおりであることを証明します。

平成 年 10 月 25 日

広島市西区草津南三丁目二番十二号
広島地区生コンクリート協同組合 共同試験場
場 長

本報告書は依頼された試験品目に対する結果を示すものです。

事前の承認なしに本報告書のカラーコピー及び一部分のみを複製して使用することを禁じます。

《 添付資料 1-7-(2) 》

※ 砕 石

2 頁／総 3 頁

受付番号 46

報告書番号 M-25003

試験依頼日 平成 年 4 月 16 日

試験品目 粗骨材

識別番号 46

受領日 平成 年 4 月 16 日

受入方法 持込み（持込み者： ）

受入状態 土のう（約 23kg）×1 袋

試験方法

JIS A 1146：2007 骨材のアルカリシリカ反応性試験方法（モルタルバー法）

セメントの酸化カリウム、酸化ナトリウム及び全アルカリ

（単位：％）

セメントの種類	酸化カリウム (K ₂ O)	酸化ナトリウム (Na ₂ O)	全アルカリ (R ₂ O)
普通ポルトランドセメント	0.38	0.27	0.52

湿度 95%以上を確保した手段 吸水紙による被覆

試験期間 平成 年 4 月 16 日～平成 年 10 月 25 日

試験結果

測定材齢ごとの各供試体の膨張率及びその平均値

（単位：％）

供試体 No.	測定材齢				
	2 週	4 週	8 週	13 週	26 週
1	0.003	0.005	0.014	0.024	0.045
2	0.004	0.007	0.015	0.026	0.045
3	0.004	0.006	0.014	0.024	0.043
平均値	0.004	0.006	0.014	0.025	0.044 ✓

試験中及び試験後の供試体観察

測定材齢	表面ひび割れ	反り	ポップアウト	斑点
13 週	認めず	認めず	認めず	認めず
26 週	認めず ✓	認めず ✓	認めず ✓	認めず ✓

《 添付資料 1-7-(3) 》

※ 砕 石

3 頁／総 3 頁

受付番号 46

報告書番号 M-25003

判 定 結 果

無害

判 定 基 準

供試体 3 本の平均膨張率が 26 週後に 0.100%未満の場合は,”無害”とし, 0.100%
以上の場合は,”無害でない”とする。

以 上

《添付資料 1-8》

※ 混和剤

平成 年 7 月度 ～ 平成 年 12 月度 コンクリート用化学混和剤 (JIS A 6204) 試験結果報告書

殿

種 類 AE減水剤 標準形 I種
商品名 フローリック SV10

1. コンクリートの試験結果

項 目			JIS A 6204 による 規定値	形式評価試験値	性能確認試験値
フレッシュコンクリート	減水率 %		10 以上	16 ✓	16 ✓
	ブリーディング量の比 %		70 以下	47 ✓	—
	ブリーディング量の差 cm^3/cm^2		—	—	—
	凝結時間の差 分	始 発	- 60 ～ + 90	+ 75 ✓	+ 65 ✓
		終 結	- 60 ～ + 90	+ 60 ✓	+ 40 ✓
	経時変化量	スランプ cm	—	—	—
空気量 %		—	—	—	
硬化コンクリート	圧縮強度比 %	材齢 1日	—	—	—
		材齢 2日 (5℃)	—	—	—
		材齢 7日	110 以上	131 ✓	128 ✓
		材齢 28日	110 以上	120 ✓	125 ✓
	長さ変化比 %		120 以下	87 ✓	—
	凍結融解に対する抵抗性 (相対動弾性係数 %)		60 以上	92 ✓	—

注記 1 1m^3 当たりの化学混和剤の使用量 形式評価試験 3.00 kg/m^3 、性能確認試験 3.00 kg/m^3
注記 2 性能確認試験は6か月ごとに1回実施し、この表に表示している試験値は、平成 年 5 月の試験結果である。
ただし、圧縮強度の性能確認試験は年1回実施し、この表に表示している試験値は、平成 年 12 月の
試験結果である。
注記 3 この表に表示している形式評価試験は、平成 年 2 月に で実施した試験結果である。

2. 塩化物イオン(Cl^-)量及び全アルカリ量

項 目	JIS A 6204 による規定値	形式評価 試験値	性能確認試験		
			化学混和剤 中の含有量	1m^3 当たりの化学 混和剤の使用量	試験値
塩化物イオン (Cl^-) 量	0.02 kg/m^3 以下	0.00 kg/m^3 ✓	0.04%	3.00 kg/m^3	0.00 kg/m^3
全アルカリ量	0.30 kg/m^3 以下	0.03 kg/m^3 ✓	1.0%	3.00 kg/m^3	0.03 kg/m^3

注記 1 性能確認試験は6か月ごとに1回実施し、この表に表示している試験値は、平成 年 5 月の試験結果である。
注記 2 この表に表示している形式評価試験は、平成 年 2 月に で実施した試験結果である。

3. その他の項目

項 目	規 格 値	試 験 値
密度 (20℃) g/cm^3	1.04 ～ 1.12	1.10

注記 この表に表示している試験値は、平成 年 5 月の試験結果である。

《 添付資料 1-9-(1) 》

※ 地下水



1 頁 / 総 2 頁
受付番号 815
報告書番号 W-24120

水 質 試 験 結 果 報 告 書

殿

依頼者申請事項

依 頼 者

住 所

試 験 品 目 上水道水以外の水（地下水）

試 料 採 取 日 平成 年 3 月 4 日

試 料 採 取 場 所 地下水水槽

試 料 採 取 代表試料約 5L

試験結果は別紙のとおりであることを証明します。

平成 年 4 月 3 日

広島市西区草津南二丁目二番十二号
広島地区生コンクリート協同組合 共同試験場
場 長

本報告書は依頼された試験品目に対する結果を示すものです。

事前の承認なしに本報告書のカラーコピー及び一部分のみを複製して使用することを禁じます。

《 添付資料 1-9-(2) 》

※ 地下水

2 頁／総 2 頁

受付番号 815

報告書番号 W-24120

試験依頼日 平成 年 3 月 4 日

試験品目 上水道水以外の水（地下水）

識別番号 815

受領日 平成 年 3 月 4 日

受入方法 持込み（持込み者： ）

受入状態 ポリ容器（約 5L）× 1 個

試験項目 懸濁物質の量

溶解性蒸発残留物の量

塩化物イオン（Cl⁻）量

セメントの凝結時間の差

モルタルの圧縮強さの比

試験方法 JIS A 5308：2009 附属書 C（規定）C. 8. 1

モルタルの圧縮強さの比 A 法

試験期間 平成 年 3 月 5 日～平成 年 4 月 3 日

試験結果

懸濁物質の量（g/L）	0.0	✓
溶解性蒸発残留物の量（g/L）	0.1	✓
塩化物イオン（Cl ⁻ ）量（ppm）	20	✓

セメントの凝結時間の差	凝結	基準水	地下水	差（min）	
	始発（min）	167	170	3	✓
	終結（min）	229	231	2	✓

モルタルの圧縮強さの比	材齢	基準水	地下水	比（%）	
	7 日（N/mm ² ）	43.9	43.5	99	✓
	28 日（N/mm ² ）	61.8	60.6	98	✓

以 上

《 添付資料 1-9-(1) 》

【見 本】

※ 回収水(スラッジ水)



1 頁 / 総 2 頁
受付番号 815
報告書番号 W-24121

水 質 試 験 結 果 報 告 書

殿

依頼者申請事項

依 頼 者 所
住 所
試 験 品 目 回収水 (スラッジ水)
試 料 採 取 日 平成 年 3 月 4 日
試 料 採 取 場 所 スラッジ水槽
試 料 採 取 代表試料約 10L

試験結果は別紙のとおりであることを証明します。

平成 年 4 月 3 日

広島市西区草津南三丁目二番十二号
広島地区生コンクリート協同組合 共同試験場
場 長

本報告書は依頼された試験品目に対する結果を示すものです。

事前の承認なしに本報告書のカラーコピー及び一部分のみを複製して使用することを禁じます。

《 添付資料 1-9-(2) 》

※ 回収水(スラッジ 水)

2 頁／総 2 頁

受付番号 815

報告書番号 W-24121

試験依頼日 平成 年 3 月 4 日

試験品目 回収水 (スラッジ水)

識別番号 815

受領日 平成 年 3 月 4 日

受入方法 持込み (持込み者:)

受入状態 ポリ容器 (約 10L) × 1 個

試験項目 塩化物イオン (Cl-) 量

セメントの凝結時間の差

モルタルの圧縮強さの比

試験方法 JIS A 5308 : 2009 附属書 C (規定) C.8.2

モルタルの圧縮強さの比 A 法

試験期間 平成 年 3 月 5 日 ~ 平成 年 4 月 3 日

試験結果

塩化物イオン (Cl-) 量 (ppm)	30	✓
----------------------	----	---

セメントの凝結時間の差	凝結	基準水	スラッジ水	差 (min)	
	始発 (min)	167	157	10	✓
	終結 (min)	229	219	10	✓

モルタルの圧縮強さの比	材齢	基準水	スラッジ水	比 (%)	
	7 日 (N/mm ²)	43.9	46.2	105	✓
	28 日 (N/mm ²)	61.8	62.5	101	✓

以 上

《 添付資料 2-1 》

製造番号		製品寸法	本数	質量	引張試験 TENSILE TEST		曲げ試験 BEND TEST	化 学 成 分 CHEMICAL COMPOSITION										
LOT No.		SIZE	QUANTITY	MASS	降伏点 Y.P.	引張強さ T.S.	伸び E.L.	衝撃試験 IMPACT TEST	C	Si	Mn	P	S	Cu	Ni	Cr	Nb	C+Mn
		mm		kg	N/mm ²	MIN	MIN	%	×100	×100	×1000	×1000	×100				×1000	×100
4-E0217		D19 X 4000	1	9	377	545	26	000	25	22	93	26	24					41
5-B0109		D19 X 7500	19	321	382	540	26	000	24	23	87	30	24					39
		サイズ計 送り状計		330 1079														

製造番号 4 L O O 3 2 以前の伸び試験は 3 号試験片による

検査員 SURVEYOR

管理グループ長
CHIEF INSPECTOR

監督員	係 長	課・所・場長

令和	年	月	日	受付 ㊟
----	---	---	---	------

納 入 (納入書・報告書・成績表)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

広島市水道事業管理者

受注者 住所、商号又は名称、代表者氏名、電話番号
広島市中区基町 9 番 32 号
株式会社 水道建設工業
代表取締役 水道 太郎
082-〇〇〇-〇〇〇

工事名 〇〇一丁目配水管〇〇工事

上記工事のレディーミクストコンクリートほかの納入 (納入書・報告書・成績表) を別紙のとおり提出
します。

注) 不要な文字は抹消すること。

《 添付資料 1 》

施工様式－ 2 6 － 1

工 事 用 材 料 集 計 表

工事名 〇〇一丁目配水管〇〇工事

品 名	規格・寸法	単位	設計数量	納入年月日	納入数量	摘 要
レディーミスト コンクリート	24-8-40BB	m ³	3.5	RO.〇.〇 ～RO.〇.〇	4.0	弁室築造用
鉄筋(SD345)	D16、D19	t	0.9	RO.〇.〇	1.079	〃
<div>【記入上の注意点】</div> <ul style="list-style-type: none">・ 設計数量は、割増を考慮し、品名ごとに合計値を記入。・ 納入数量は、伝票を確認し、品名ごとに合計値を記入。・ 納入年月日は、伝票を確認して記入。・ 納入年月日が2日以上ある場合は、RO.〇.〇～RO.〇.〇と記入。・ 摘要は、用途を記入。						

《 添付資料 2 》

レディーミクストコンクリート納入書														
平成 年 10 月 1 日														
殿														
 TC0612004														
納入場所														
運搬車番号		510			累計台数			1 台目						
納入時刻		発		13 時			23 分							
		着		13 時			40 分							
納入容積		4.00 m ³			累計			4.00 m ³						
呼び方		コンクリートの種類による記号			呼び強度			スランプ又はスランプフロー cm		粗骨材の最大寸法 mm		セメントの種類による記号		
		普通			24			8		40		BB		
配合表 kg/m ³														
セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③	
271	-	-	157	580	247	-	1083	-	-	-	1.63	-	-	
水セメント比		58.0 %		水結合材比		-		細骨材率		43.9 %		スラグ固形分率		2.5 %
回収骨材置換率		細骨材		-		粗骨材		-						
備考		配合の種類： <input checked="" type="checkbox"/> 標準配合 <input type="checkbox"/> 修正標準配合 <input type="checkbox"/> 計量読取記録から算出した単位量 <input type="checkbox"/> 計量印字記録から算出した単位量 <input type="checkbox"/> 計量印字記録から自動算出した単位量												
荷受職員 認 印		印			出 荷 係 認 印		印							
広島地区生コンクリート協同組合														

《 添付資料 3-2 》

コード 1902

納 品 書

伝票No. 051

年 02 月 17 日

御中

売契約No. 051-1902-0000 工事名

送り状 No.		受渡場所 運送方法		決済 条件							
010161				15ヶ月以内10%30%70%120							
計 区	商品コード	品 名	規 格	寸 法 / 単 重	長さ	員 数	単位	重 量	単 価	金 額	
0	010603	異形丸鋼	SD345	D16	3.500	4	t	22	000		
0	010603	異形丸鋼	SD345	D16	4.000	5	t	31	000		
0	010603	異形丸鋼	SD345	D16	4.500	24	t	168	000		
0	010603	異形丸鋼	SD345	D16	6.000	28	t	262	000		
0	010603	異形丸鋼	SD345	D16	6.500	2	t	20	000		
0	010603	異形丸鋼	SD345	D16	7.500	12	t	140	000		
0	010603	異形丸鋼	SD345	D16	8.500	8	t	106	000		
0	010604	異形丸鋼	SD345	D19	4.000	1	t	9	000		
0	010604	異形丸鋼	SD345	D19	7.500	19	t	321	000		
0	19801	運賃			0	0		0	0		
0		商品代金									
0	999999	消費税									
合 計						103		1079			

監督員	係 長	課・所・場長

令和 年 月 日受付 ㊤

試 験 (納入書・報告書・成績表)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

広島市水道事業管理者

受注者 住所、商号又は名称、代表者氏名、電話番号

広島市中区基町9番32号
株式会社 水道建設工業
代表取締役 水道 太郎
082-〇〇〇-〇〇〇

工事名 〇〇一丁目配水管〇〇工事

上記工事の コンクリートの試験 (納入書・報告書・成績表) を別紙のとおり提出します。

【注意】

- ※ 添付資料として、下記の写真を貼付する。
- ・ コア採取時における各試験の確認状況写真
 - ・ 材令7日強度試験における確認状況写真
 - ・ 材令28日強度試験における確認状況写真

注) 不要な文字は抹消すること。

《 添付資料 1 》

生コンクリート中の塩化物含有量試験表

殿

平成 年 3月25日

工 事 名																																																																																																																																														
打設箇所																																																																																																																																														
呼 び 方	普通 27- 8-20BB 膨張材																																																																																																																																													
配 合	セメント	水	細 骨 材			粗 骨 材			W/(C+B)	s / a																																																																																																																																				
			石灰	砕砂		砕石			(%)	(%)																																																																																																																																				
	289	167	255	596	----	998	----	----	54	46.6																																																																																																																																				
	混 和 材					混 和 剤																																																																																																																																								
kg/m ³	太平洋ハイペース					フローリックSV10																																																																																																																																								
	20		----			2.01		----		----																																																																																																																																				
試 験 日	平成 年 3月25日																																																																																																																																													
測定器名																																																																																																																																														
試 験		1	2	3	塩化物含有量(kg/m ³) = 塩素イオン濃度(%)の平均 × 単位水量(kg/m ³) 100																																																																																																																																									
	測定機器の読み	2.0	2.0	2.0																																																																																																																																										
	塩素イオン濃度(%)	0.022	0.022	0.022	規 格 値	0.3 以下																																																																																																																																								
	イオン濃度平均値(%)	0.022			平均値	0.037 以下																																																																																																																																								
結 果	単位水量(kg/m ³)	167			判 定	㊥																																																																																																																																								
備考：																																																																																																																																														
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>■換算表の張り付け位置</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>カンタブ標準品</p> <p>換算標</p> <p>Lot.No. 380063</p> <p>コンクリート用</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>読み</th> <th>塩素イオン (%)</th> <th>読み</th> <th>塩素イオン (%)</th> <th>読み</th> <th>塩素イオン (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1.6</td><td>0.006</td><td>3.7</td><td>0.088</td><td>5.8</td><td>0.244</td></tr> <tr><td>1.7</td><td>0.010</td><td>3.8</td><td>0.094</td><td>5.9</td><td>0.255</td></tr> <tr><td>1.8</td><td>0.014</td><td>3.9</td><td>0.100</td><td>6.0</td><td>0.266</td></tr> <tr><td>1.9</td><td>0.018</td><td>4.0</td><td>0.106</td><td>6.1</td><td>0.278</td></tr> <tr><td>2.0</td><td>0.022</td><td>4.1</td><td>0.111</td><td>6.2</td><td>0.289</td></tr> <tr><td>2.1</td><td>0.025</td><td>4.2</td><td>0.117</td><td>6.3</td><td>0.301</td></tr> <tr><td>2.2</td><td>0.029</td><td>4.3</td><td>0.123</td><td>6.4</td><td>0.312</td></tr> <tr><td>2.3</td><td>0.033</td><td>4.4</td><td>0.129</td><td>6.5</td><td>0.324</td></tr> <tr><td>2.4</td><td>0.037</td><td>4.5</td><td>0.135</td><td>6.6</td><td>0.340</td></tr> <tr><td>2.5</td><td>0.041</td><td>4.6</td><td>0.140</td><td>6.7</td><td>0.357</td></tr> <tr><td>2.6</td><td>0.044</td><td>4.7</td><td>0.146</td><td>6.8</td><td>0.373</td></tr> <tr><td>2.7</td><td>0.048</td><td>4.8</td><td>0.152</td><td>6.9</td><td>0.390</td></tr> <tr><td>2.8</td><td>0.052</td><td>4.9</td><td>0.158</td><td>7.0</td><td>0.407</td></tr> <tr><td>2.9</td><td>0.056</td><td>5.0</td><td>0.163</td><td>7.1</td><td>0.423</td></tr> <tr><td>3.0</td><td>0.060</td><td>5.1</td><td>0.169</td><td>7.2</td><td>0.440</td></tr> <tr><td>3.1</td><td>0.063</td><td>5.2</td><td>0.175</td><td>7.3</td><td>0.456</td></tr> <tr><td>3.2</td><td>0.067</td><td>5.3</td><td>0.186</td><td>7.4</td><td>0.473</td></tr> <tr><td>3.3</td><td>0.071</td><td>5.4</td><td>0.198</td><td>7.5</td><td>0.541</td></tr> <tr><td>3.4</td><td>0.075</td><td>5.5</td><td>0.209</td><td>7.6</td><td>0.609</td></tr> <tr><td>3.5</td><td>0.079</td><td>5.6</td><td>0.221</td><td>7.7</td><td>0.676</td></tr> <tr><td>3.6</td><td>0.082</td><td>5.7</td><td>0.232</td><td>7.8</td><td>0.744</td></tr> </tbody> </table> <p>株式会社</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>■測定器の張り付け位置</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>1</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>2</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>3</p> </div> </div> </div> </div> </div>											読み	塩素イオン (%)	読み	塩素イオン (%)	読み	塩素イオン (%)	1.6	0.006	3.7	0.088	5.8	0.244	1.7	0.010	3.8	0.094	5.9	0.255	1.8	0.014	3.9	0.100	6.0	0.266	1.9	0.018	4.0	0.106	6.1	0.278	2.0	0.022	4.1	0.111	6.2	0.289	2.1	0.025	4.2	0.117	6.3	0.301	2.2	0.029	4.3	0.123	6.4	0.312	2.3	0.033	4.4	0.129	6.5	0.324	2.4	0.037	4.5	0.135	6.6	0.340	2.5	0.041	4.6	0.140	6.7	0.357	2.6	0.044	4.7	0.146	6.8	0.373	2.7	0.048	4.8	0.152	6.9	0.390	2.8	0.052	4.9	0.158	7.0	0.407	2.9	0.056	5.0	0.163	7.1	0.423	3.0	0.060	5.1	0.169	7.2	0.440	3.1	0.063	5.2	0.175	7.3	0.456	3.2	0.067	5.3	0.186	7.4	0.473	3.3	0.071	5.4	0.198	7.5	0.541	3.4	0.075	5.5	0.209	7.6	0.609	3.5	0.079	5.6	0.221	7.7	0.676	3.6	0.082	5.7	0.232	7.8	0.744
読み	塩素イオン (%)	読み	塩素イオン (%)	読み	塩素イオン (%)																																																																																																																																									
1.6	0.006	3.7	0.088	5.8	0.244																																																																																																																																									
1.7	0.010	3.8	0.094	5.9	0.255																																																																																																																																									
1.8	0.014	3.9	0.100	6.0	0.266																																																																																																																																									
1.9	0.018	4.0	0.106	6.1	0.278																																																																																																																																									
2.0	0.022	4.1	0.111	6.2	0.289																																																																																																																																									
2.1	0.025	4.2	0.117	6.3	0.301																																																																																																																																									
2.2	0.029	4.3	0.123	6.4	0.312																																																																																																																																									
2.3	0.033	4.4	0.129	6.5	0.324																																																																																																																																									
2.4	0.037	4.5	0.135	6.6	0.340																																																																																																																																									
2.5	0.041	4.6	0.140	6.7	0.357																																																																																																																																									
2.6	0.044	4.7	0.146	6.8	0.373																																																																																																																																									
2.7	0.048	4.8	0.152	6.9	0.390																																																																																																																																									
2.8	0.052	4.9	0.158	7.0	0.407																																																																																																																																									
2.9	0.056	5.0	0.163	7.1	0.423																																																																																																																																									
3.0	0.060	5.1	0.169	7.2	0.440																																																																																																																																									
3.1	0.063	5.2	0.175	7.3	0.456																																																																																																																																									
3.2	0.067	5.3	0.186	7.4	0.473																																																																																																																																									
3.3	0.071	5.4	0.198	7.5	0.541																																																																																																																																									
3.4	0.075	5.5	0.209	7.6	0.609																																																																																																																																									
3.5	0.079	5.6	0.221	7.7	0.676																																																																																																																																									
3.6	0.082	5.7	0.232	7.8	0.744																																																																																																																																									

《 添付資料 2 》

※ 材令7日

強度試験成績書									
平成 年 4月 1日									
殿									
工 事 名 称									
打込箇所									
呼 び 方		コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラブ°又はスラブ°フロー	粗骨材の最大寸法	セメントの種類による記号			
		普通	27	cm	mm				
指 事 定 項		膨張材							
採 取 月 日	試 験 月 日	材 齢 (日)	番 号	スラブ° (cm)	空気量 (%)	最大荷重 (kN)	強度 (N/mm ²)	平均強度 (N/mm ²)	摘 要
3/25	4/ 1	7	1	9.0	4.6	203	25.8	25.9	1回目 C1=0.037kg/m ³ 標準養生
			2			206	26.2		
			3			201	25.6		
備 考									
供試体寸法 φ10×20									
担 当 者									

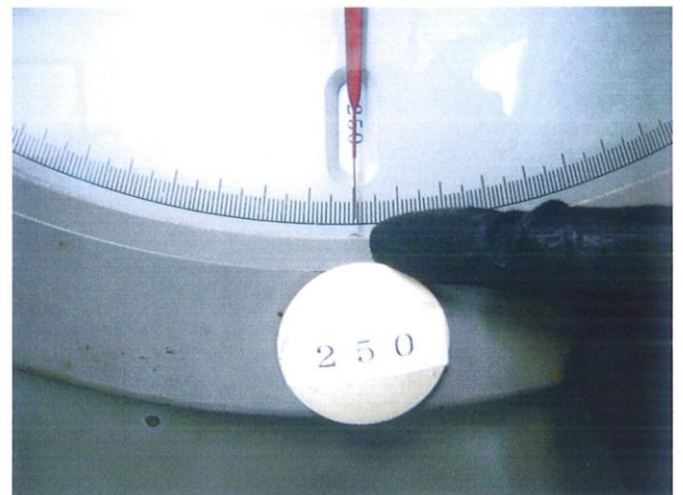
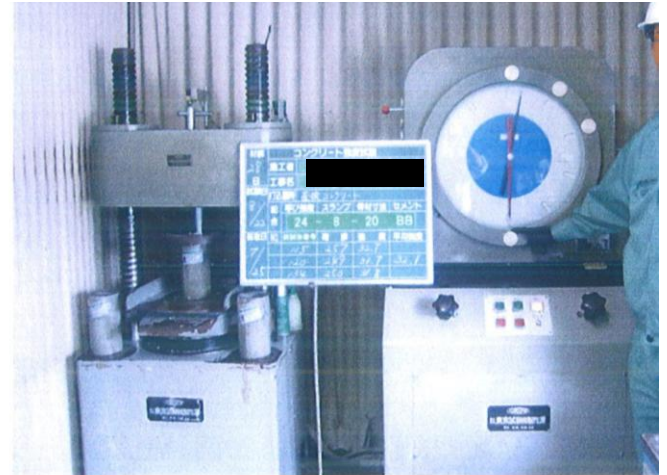
《 添付資料 3 》

※ 材令 28 日

強度試験成績書											
平成 年 4月22日											
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;">殿</div> <div style="width: 40%;"></div> <div style="width: 30%; text-align: right;"> </div> </div>											
工 名											
打込箇所											
呼 び 方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラブ 又はスラブ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号						
	普通	27	8	20	BB						
指 事	定 項	膨張材									
採 取 月 日	試 験 月 日	材 齢 (日)	番 号	スラブ (cm)	空気量 (%)	最大荷重 (kN)	強度 (N/mm ²)	平均強度 (N/mm ²)	摘 要		
3/25	4/22	28	1	9.0	4.6	312	39.7	39.5	1回目 C1=0.037kg/m ³ 標準養生		
			2			309	39.3				
			3			310	39.5				
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>備 考</div> <div>供試体寸法 φ 10×20</div> </div>											
										担 当 者	

《 添付資料 4 》

※ 立会状況写真



監督員	係 長	課・所・場長

令和 年 月 日受付 ㊤

単位水量測定試験（~~納入書・報告書・成績表~~）

令和〇〇年〇〇月〇〇日

広島市水道事業管理者

受注者 住所、商号又は名称、代表者氏名、電話番号

広島市中区基町 9 番 32 号
株式会社 水道建設工業
代表取締役 水道 太郎
082-〇〇〇-〇〇〇

工事名 〇〇調整池〇〇新設工事上記工事の 単位水量測定試験（~~納入書・報告書・成績表~~）を別紙のとおり提出します。

【注意】

- ※ 添付資料として、下記の写真を貼付する。
- ・ コア採取時における各試験の確認状況写真

注）不要な文字は抹消すること。

レディーミクストコンクリートの単位水量推定試験結果報告書

殿

工 事 名												
打 設 箇 所	スラブコンクリート(5リフト)											
測 定 日	平成 年10月28日	時 刻	8時30分			測定運搬車	62					
呼 び 方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー (cm)			粗骨材の最大寸法 (mm)	セメントの種類による記号					
	普通	27	8			20	BB					
配合表(kg/m ³)												
セメント(C)	混和材(AD)		水(W)	細骨材(S)			粗骨材(G)			混和剤(AE)		
	1	2		1	2	3	1	2	3	1	2	3
301	20		167	409	420		396	593		2.77		
① 骨材修正係数		② 空気量		水結合材比		細骨材率		指定事項				
0 (%)		4.5 (%)		56.5 (%)		44.5 (%)						
使用機器名称		ワシントン型エアメータ				機器番号		C13WP-51317XT				
配合表結果	③配合表上のコンクリート1m ³ あたりの質量					(C+AD)+W+S+G		2306		(kg/m ³)		
	④セメント粒子への水の浸潤による容積減少量					$\frac{0.1 \times (C+AD)}{100}$		0.321		(%)		
	⑤空気量を除いた容積					$1 - \frac{(②+④)}{100}$		0.952		(m ³)		
	⑥配合表上の空気量を除いた単位容積質量					$\frac{③}{⑤}$		2422		(kg/m ³)		
試験結果	測定スランプ							9.0		(cm)		
	⑦測定空気量							4.4		(%)		
	⑧試料中の空気量					⑦-①		4.4		(%)		
	コンクリート温度							18		(°C)		
	⑨エアメータの容積							7052		(cc)		
	⑩エアメータの質量							6246		(g)		
	⑪エアメータの質量+試料の質量							22610		(g)		
計算結果	⑫試料の質量					⑪-⑩		16364		(g)		
	⑬試料の空気量を除いた容積					$⑨ \times (1 - \frac{⑧}{100})$		6742		(cc)		
	⑭試料の単位容積質量					$\frac{⑫}{⑬} \times 1000$		2427		(kg/m ³)		
	⑮単位水量の推定誤差					(⑥-⑭)×0.7		-3.5		(kg/m ³)		
	⑯推定単位水量					W+⑮		164		(kg/m ³)		
	⑰推定水セメント比					$\frac{⑯}{C} \times 100$		54.5		(%)		
	判 定	判定基準:配合設計上の単位水量との差±15kg/m ³ 以下							合格			
試験方法	エアメータ法による単位水量の推定試験【土木研究所・簡易式・無注水法】											
立会者						担当者						
備考												

《添付資料2》

【見 本】

※ 立会状況写真



試験結果

スランプ	9.0	cm
空気量	4.4	%
コンクリート温度	18	℃
外気温	8	℃
重量	22.610	kg
単位水量	164	kg/m ³
塩化物含有量	0.05	kg/m ³

《 表 紙 》

【記入例】

【注意】

- ・ 工事で使用する水道用資材全てについて、提出させる。
(メーカー名は必須)
- ・ 承認及び指定材料であれば、添付資料は不要。
- ・ 鋼板製の不断水T字管等を使用する場合、現地の既設管を確認のうえ、製作となるため、製作図承認願を提出させる。

施工様式－14

監督員	係長	課・所・場長
-----	----	--------

令和 年 月 日受付 印

使 用 資 材 届

令和〇〇年〇〇月〇〇日

広島市水道事業管理者

受注者 住所、商号又は名称、代表者氏名、電話番号

広島市中区基町9番32号
株式会社 水道建設工業
代表取締役 水道 太郎
082-〇〇〇-〇〇〇

下記のとおり使用資材を届け出ます。

記


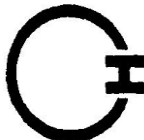
工 事 名	〇〇一丁目配水管〇〇工事		
工 事 場 所	広島市〇〇〇区〇〇一丁目		
工 期	令和〇〇年〇〇月〇〇日 から 令和〇〇年〇〇月〇〇日 まで		
品 目	規格・寸法	納入業者名及びメーカー名	摘 要
減圧弁用鉄蓋	φ 500	(株)〇〇商会 □□工業(株)	弁室築造用
上部土留側	φ 500×200	(株)〇〇商会 □□工業(株)	〃
下部土留側	φ 500×300	(株)〇〇商会 □□工業(株)	〃
土留板(I.N付)	φ 500×40	(株)〇〇商会 □□工業(株)	〃
カップリング	雄 65	(株)〇〇商会 (株)△△製作所	〃
径違いソケット	SP 65×50	(株)〇〇商会 ◇◇鉄鋼(株)	〃
青銅ねじ込み仕切弁	1Mpa 内ねじ式 50	(株)〇〇商会 ▽▽(株)	〃
V L S	<div>【注意】</div> <ul style="list-style-type: none">・ 品目が多く、この書式に入りきらない場合は、別紙に明記してもよいものとする。		
エルボ			
ニップル	SP 50	(株)〇〇商会 ◇◇鉄鋼(株)	〃

製造者及び製品表示マーカー一覧表
















【注意】

・これに無いものについては、技術管理課と協議すること。

【あ行】

朝日鑄工(株) 	イトー鑄造(株) 	(株)イノアックコーポレーション (継手類)  IP	植田鑄造(株) 	
梅原工業(株) 	大島工業(株) 	大阪金属(株) 	(株)オクダソカベ OSK	(株)岡本  または NBK













【か行】

(株)川西水道機器 製作所 	川彦(株) 	九州鑄鉄管(株) 	協和工業(株) 	(株)クボタ (ダクタイル鑄鉄管類) 
(株)クボタ (弁類・栓類) 	(弁類, 継手類, ビニル管等) 	クダイト工業(株) (接合部品の一部) 		(株)栗本鐵工所 
栗本商事(株) 	(製品の一部) 	(株)光明製作所 	小熊機械(株) 	コスモ工機(株) 






【さ行】

サエス護謨工業(株) 	三報ゴム(株) 	(株)清水鐵工所 	(株)清水合金製作所 	清水工業(株) 
ショーボント カップ・リンク` (株) 	(株)水研 	水道機工(株) 	住友金属工業(株) 	角田鉄工(株) 
スゞキ鑄鉄工業(株) 	積水化学工業(株) 	園部重工業(株) 		

【た行】









大成機工(株) 	(株)ダイヤモンド 	タイヨー・ジョイント(株) 	大和重工(株) 	(株)タブチ 
千代田工業(株) 	(株)ティーム 	(株)テクノフレックス・トーラ 	東洋バルヴ(株) 	友鉄工業(株) 
(株)友鉄ランド 	(株)トミス 			

【な行】








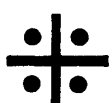

(株)中村水道工業所 	(株)西澤バルブ`製作所 	(株)日栄水栓工業所 	(株)ニチブ 	(株)日邦バルブ 
---	---	---	--	---

二宮産業(株) 	日本鑄鉄管(株) 	日本ヴィクトリック(株) 		
--	---	---	--	--

【は行】

(株)ハズ 	日之出水道機器(株) 	古川工業(株) 	富士鉄工(株) 	(株)ベン 
(株)ベンカン 	(株)ホクキャスト 	北勢工業(株) 		

【ま行】

前澤給装工業(株) 	前澤工業(株) 	前田バルブ工業(株) 	(株)牧村製作所 	(株)松鋳 
三国プラスチック(株) 	宮部鉄工(株) 	村精鑄工(株) 	(株)森田鉄工所 	

【や行】

山岡鉄管(株) 	(株)ヨシタケ 	大和キャスタル(株) 		
--	--	---	--	--

監督員	係 長	課・所・場長

令和 年 月 日受付 ㊤

納 入 (納入書・報告書・成績表)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

広島市水道事業管理者

受注者 住所、商号又は名称、代表者氏名、電話番号

広島市中区基町 9 番 32 号
株式会社 水道建設工業
代表取締役 水道 太郎
082-〇〇〇-〇〇〇

工事名 〇〇一丁目配水管〇〇工事

上記工事の 水道用資材ほかの納入 (納入書・報告書・成績表) を別紙のとおり提出します。

注) 不要な文字は抹消すること。

《 添付資料 1 》

施工様式－26－1

工 事 用 材 料 集 計 表

工事名 〇〇一丁目配水管〇〇工事

品 名	規格・寸法	単位	設計数量	納入年月日	納入数量	摘 要
減圧弁用鉄蓋	φ 500	こ	1.0	〇.〇.〇	1.0	弁室築造用
上部土留側	φ 500×200	〃	1.0	〇.〇.〇	1.0	〃
下部土留側	φ 500×300	〃	1.0	〇.〇.〇	1.0	〃
土留板(シャット付)	φ 500×40	〃	1.0	〇.〇.〇	1.0	〃
カップ リング	雄 65	〃	2.0	〇.〇.〇	2.0	〃
径違いソケット	SP 65×50	〃	2.0	〇.〇.〇	2.0	〃
青銅ねじ込み仕切弁	1Mpa内ねじ式 50	〃	2.0	〇.〇.〇	2.0	〃
V L S P	50	m	4.0	〇.〇.〇	4.0	〃
エルボ	SP 50	こ	6.0	〇.〇.〇	6.0	〃
ニップル	SP 50	〃	2.0	〇.〇.〇	2.0	〃
合フランジ	75×50	〃	2.0	〇.〇.〇	2.0	〃
振止金具セット		式	1.0	〇.〇.〇	1.0	〃
測定室鉄蓋	φ 500	こ	1.0	〇.〇.〇	1.0	〃
不断水 T 字管 (分岐バルブ有り)	(型式) 400×150 CP 用	こ	1.0	〇.〇.〇	1.0	新旧管連絡用
<div> 【記入上の注意点】 <ul style="list-style-type: none"> 設計数量は、品名ごとに合計値を記入。 納入数量は、伝票を確認し、品名ごとに合計値を記入。 納入年月日は、伝票を確認して記入。 納入年月日が2日以上ある場合は、RO.O.O～RO.O.Oと記入。 摘要は、用途を記入。 </div>						

《 添付資料 2-1 》

【確認項目】

- ・納品書で数量を確認する。
- ・個々の製品について外観検査を行い、製造メーカーの刻印・マーク、公益社団法人 日本水道協会の検査証印等を確認する。

施工様式－４０

令和〇〇年〇〇月〇〇日

監督員 〇〇 〇〇 様

【注意】

- ・業者持ち材料で、ダクタイル鋳鉄管等を使用する場合、ダクタイル鋳鉄管等は、暦年の前年、前々年の製造、またゴム輪は暦年の前年の製造のものしか使用できないため、現物にて製造年月を確認すること。

受注者 (株)水道建設産業

現場代理人 □□ □□

工 事 用 材 料 確 認 請 求 書

工事名 〇〇一丁目配水管〇〇工事

(工事種別 弁室築造工)

この工事に使用する下記材料の確認を実施願います。

記

※ 確認後、監督員にて記入する。
 ※ 立会いを原則とするが、やむを得ず立会できない場合は、机上確認とし、現場代理人等での確認状況写真、納品書等で確認する。

材 料 名	品質・規格	単 位	搬入数量	監督員確認欄			備 考
				確認年月日	合格数量	累 計	
減圧弁用鉄蓋	φ 500	こ	1.0	〇.〇.〇	1.0	1.0	立会
上部土留側	φ 500×200	〃	1.0	〇.〇.〇	1.0	1.0	〃
下部土留側	φ 500×300	〃	1.0	〇.〇.〇	1.0	1.0	〃
土留板(インサート付)	φ 500×40	〃	1.0	〇.〇.〇	1.0	1.0	〃
カップリング	雄 65	〃	2.0	〇.〇.〇	2.0	2.0	〃
径違いソケット	SP 65×50	〃	2.0	〇.〇.〇	2.0	2.0	〃
青銅ねじ込み仕切弁	1Mpa内ねじ式 50	〃	2.0	〇.〇.〇	2.0	2.0	〃
エルボ	SP 50	m	6.0	〇.〇.〇		6.0	〃
ニップル	SP 50	〃	2.0	〇.〇.〇	2.0	2.0	〃
合フライング	75×50	〃	3.0	〇.〇.〇	3.0	3.0	〃
振止金具セット		式	2.0	〇.〇.〇	2.0	2.0	〃

※ 確認欄記入後、押印する。

品質管理担当者氏名


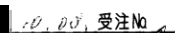
※ 品質管理担当者は、
 施工計画書で確認。


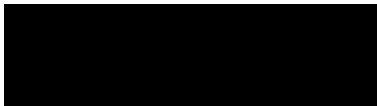

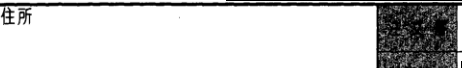
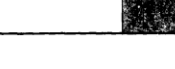



主任(監理)技術者氏名


監督員



納品書 (正)

年月  受注No 

		殿		
		殿	住所 	
		殿	 様	
		殿	 殿	

品番	仕 様	数量	単位	備 考
1	V. cip. 右側 S 溝) S40BN 400×150 1個 15/3 角付			
2	" " " " " 角付 400×150 1個			
3	仕 様			
4	仕 様			

上記の通り御納品申し上げますから御査収下さい。

《 表 紙 》

【記入例】

施工様式－ 1 4

【注意】

- ・ 工事で使用する給水装置材料全てについて、提出させる。(メーカー名必須)
- ・ JIS・JWWA 製品及び管理者指定材料であれば、添付資料は不要。
- ・ 鋼板製の不断水T字管等を使用する場合、現地の既設管を確認のうえ、製作となるため、製作図承認願を提出させる。

監督員

係長

課・所・場長

令和 年 月 日受付 印

使 用 資 材 届

令和〇〇年〇〇月〇〇日

広島市水道事業管理者

受注者 住所、商号又は名称、代表者氏名、電話番号

広島市中区基町 9 番 32 号
 株式会社 水道建設工業
 代表取締役 水道 太郎
 082-〇〇〇-〇〇〇

下記のとおり使用資材を届け出ます。

記

工 事 名	〇〇一丁目配水管〇〇工事		
工 事 場 所	広島市〇〇〇区〇〇一丁目		
工 期	令和〇〇年〇〇月〇〇日 から 令和〇〇年〇〇月〇〇日 まで		
品 目	規格・寸法	納入業者名及びメーカー名	摘 要
品目等は別紙のとおり			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【注意】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 品目が多く、この書式に入りきらない場合は、別紙に明記してもよいものとする。 </div>			

品 目	規格・寸法	納入業者名及びメーカー名		摘 要
耐震不断水 T 字管 (可とう性あり)	φ 100×75	(株)□□	◇◇工業(株)	管理者指定品
可とう式 ボール付分水栓	φ 100×25 CP-PP	〇〇組合	□□工業(株)	〃
PP 管	25	(株)▽▽	◇◇工業(株)	JIS K 6762
HIVP	25	(株)▽▽	◇◇工業(株)	JIS K 6742
ねじ込み形 ボール止水栓	25	〇〇組合	□□工業(株)	管理者指定品
金属おねじ付 バルブ用ソケット	25	〇〇組合	◇◇工業(株)	JIS K 6743
バルブ用エルボ	25	〇〇組合	◇◇工業(株)	管理者指定品
P1 エルボ	25	〇〇組合	◇◇工業(株)	〃
HI エルボ		(株)▽▽	◇◇工業(株)	JIS K 6743
HI キャップ		(株)▽▽	◇◇工業(株)	〃
止水栓ボックス	乙型	〇〇組合	△△工業(株)	管理者指定品
赤レンガ		(株)〇△		規格外

※ 納入業者名とメーカー名が異なる
場合は、それぞれ記入する。

※ JIS・JWWA 製品及び管理者指定材
料をそれぞれ記入する。

監督員	係 長	課・所・場長

令和 年 月 日受付 ㊟

納 入 (納入書・報告書・~~成績表~~)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

広島市水道事業管理者

受注者 住所、商号又は名称、代表者氏名、電話番号

広島市中区基町 9 番 32 号
 株式会社 水道建設工業
 代表取締役 水道 太郎
 082-〇〇〇-〇〇〇

工事名 〇〇一丁目配水管〇〇工事

上記工事の 給水装置材料の納入 (納入書・報告書・~~成績表~~) を別紙のとおり提出します。

注) 不要な文字は抹消すること。

《 添付資料 1 》

施工様式－26－1

工 事 用 材 料 集 計 表

工事名 ○○一丁目配水管○○工事

品 名	規格・寸法	単位	設計数量	納入年月日	納入数量	摘 要
水道用可とう式 ナール付分水栓	φ100×25 CP-PP	こ	10.0	○.○.○	10.0	給水管取付用
PP 管	25	m	25.0	○.○.○	30.0	〃
HIVP	25	〃	8.0	○.○.○	10.0	〃
ボール止水栓 (ねじ込み形)	25	こ	10.0	○.○.○	10.0	〃
メタルナール用 ソケット	25	〃	10.0	○.○.○	10.0	〃
回転エルボ	25	〃	10.0	○.○.○	10.0	〃
P1 エルボ	25	〃	20.0	○.○.○	20.0	〃
エルボ	25	〃	10.0	○.○.○	10.0	〃
キャップ	25	〃	10.0	○.○.○	10.0	〃
止水栓ボックス	乙型	〃	10.0	○.○.○	10.0	〃
赤レンガ		〃	20.0	○.○.○	20.0	〃
<div> 【記入上の注意点】 <ul style="list-style-type: none"> 設計数量は、割増を考慮し、品名ごとに合計値を記入。 納入数量は、伝票を確認し、品名ごとに合計値を記入。 納入年月日は、伝票を確認して記入。 納入年月日が2日以上ある場合は、RO.○.○～RO.○.○と記入。 摘要は、用途を記入。 </div>						

《 添付資料 2-1 》

【注意】

- 確認は、給水装置工事主任技術者の立会いのうえ行う。
(理由:給水装置の構造及び材質が水道法第 16 条の規定に基づく
政令に定める基準に適合しているかどうかの確認を行うため)
- 赤いカは品質を求めているため、納入報告書で数量確認する。

施工様式-40

令和〇〇年〇〇月〇〇日

監督員 〇〇 〇〇 様

受注者 ㈱水道建設産業
現場代理人 □□ □□

工 事 用 材 料 確 認 請 求 書

工事名 〇〇一丁目配水管〇〇工事
(工事種別 給水管取付工)

※ 確認後、監督員にて記入する。
※ 立会いを原則とするが、やむを得ず立会
いできない場合は、机上確認とし、現場代理
人等での確認状況写真、納品書等で確認す
る。

この工事に使用する下記材料の確認を実施願います。
記

材 料 名	品質・規格	単 位	搬入数量	監督員確認欄			備 考
				確認年月日	合格数量	累 計	
水道用可とう式 サトル付分水栓	φ100×25 CP-PP	こ	10.0	〇.〇.〇	10.0	10.0	立会
ボール止水栓 (ねじ込み形)	25	〃	10.0	〇.〇.〇	10.0	10.0	〃
メタルットバルブ用 ソケット	25	〃	10.0	〇.〇.〇	10.0	10.0	〃
回転エルボ	25	〃	10.0	〇.〇.〇	10.0	10.0	〃
P1 エルボ	25	〃	20.0	〇.〇.〇	20.0	20.0	〃
止水栓ボックス	乙型	〃	10.0	〇.〇.〇	10.0	10.0	〃
PP 管	25	m	30.0	〇.〇.〇	30.0	30.0	〃
HIVP	25	〃	10.0	〇.〇.〇	10.0	10.0	〃
エルボ	25	〃	10.0	〇.〇.〇	10.0	10.0	※ 確認欄記 入後、押印 する。
キャップ	25	〃	10.0	〇.〇.〇	10.0	10.0	

品質管理担当者氏名

※ 品質管理担当者は、
施工計画書で確認。

主任(監理)技術者氏名

監督員

○

《 添付資料 2-2 》

【注意】

- ・ 各材料について、在庫品を使用してもよいが、その材料の製造年月日を確認のうえ、新しい給水装置の構造及び材質が水道法第 16 条の規定に基づく政令に定める基準に適合しているかどうかの確認を行う。
- ・ 製造から年月が経過していても、新基準に適合している証明書が確認できれば、その材料は使用しても法的には規制がないが、その材料を使用する場合は、J Mの劣化の有無、亀裂の有無、錆の進み具合等よく確認のうえ、使用の有無の判断を行う。
- ・ 使用判断の有無が難しい場合は、給水課と協議すること。

納 品 書

平成〇〇年〇〇月〇〇日

工事店名 (株)水道建設工業

殿

受領印	購入伝票番号	区 分	工事場所氏名及び現場名		納入業者又はメーカー名	
○			〇〇一丁目配水管新設工事			
コード	品 名	寸 法	数 量	単 価	金額	摘 要
	可とう式ナット付分水栓	100×25 CP-PP	10.00			
	ボール止水栓(ねじ込み形)	25	10.00			
	メタルナット用ハーフソケット	25	10.00			
	回転エルボ	25	10.00			
	P1エルボ	25	20.00			
	止水栓ボックス	乙型	10.00			
				合 計		

納 品 書

平成〇〇年〇〇月〇〇日

(株)水道建設工業

殿

納入業者及びメーカー名

納入場所 〇〇一丁目

御注文番号

品 名	寸 法	単位	数 量	単 価	金 額	摘 要
PP管	25	m	30.00			
HIVP	25	m	10.00			
エルボ	25	こ	10.00			
キャップ	25	こ	10.00			
合計						

監督員	係長	課・所・場長

令和	年	月	日	受付 印
----	---	---	---	------

使 用 資 材 届

令和〇〇年◇◇月△△日

広島市水道事業管理者

受注者 住所、商号又は名称、代表者氏名、電話番号
広島市中区基町 9 番 32 号
株式会社 水道建設工業
代表取締役 水道 太郎
082-〇〇〇-〇〇〇

下記のとおり使用資材を届け出ます。

記

工 事 名	〇〇一丁目配水管〇〇工事		
工 事 場 所	広島市〇〇〇区〇〇一丁目		
工 期	令和〇〇年〇〇月〇〇日 から 令和〇〇年〇〇月〇〇日 まで		
品 目	規格・寸法	納入業者名及びメーカー名	摘 要
セメント	普通ポルランドセメント	(株)〇〇 (株)◇◇	高圧噴射攪拌工
混和剤	〇パウダー	(株)〇〇 △△(株)	〃
主 剤	3 号珪酸ソーダ	(株)〇〇 (株)□□	薬液注入工
硬化剤	〇ロック 3 号	(株)〇〇 ▽▽(株)	〃

※ 納入業者名とメーカー名が異なる場合は、それぞれ記入する。

《 添付資料 1 》

【チェック項目】・・共通仕様書 2-8-2 参照

- ・ 比表面積は、 $2,500 \text{ cm}^2/\text{g}$ 以上か。
- ・ 凝結は、始発 1h 以上か、終結 10h 以上か。
- ・ 圧縮強さは、 $3\text{d} \cdot 12.5\text{N}/\text{mm}^2$ 以上か、 $7\text{d} \cdot 22.5\text{N}/\text{mm}^2$ 以上か、 $28\text{d} \cdot 42.5\text{N}/\text{mm}^2$ 以上か。
- ・ 水和熱は、 $7\text{d} \cdot 350\text{J}/\text{g}$ 以下か、 $28\text{d} \cdot 400\text{J}/\text{g}$ 以下か。
- ・ 酸化マグネシウムは、5.0%以下か。
- ・ 三酸化硫黄は、3.0%以下か。
- ・ 強熱減量は、3.0%以下か。
- ・ 全アルカリは、0.75%以下か。
- ・ 塩化物イオンは、0.035%以下か。

セメント試験成績表

平成 年10月度

これを使用

品 質	種 類	普通ポルトランドセメント				早強ポルトランドセメント				高 炉 セ メ ン ト B 種			
		JIS R 5210 規格値	試 験 成 績			JIS R 5210 規格値	試 験 成 績			JIS R 5211 規格値	試 験 成 績		
			平 均 値	標 準 偏 差	最 大 値 (最小値)		平 均 値	標 準 偏 差	最 大 値 (最小値)		平 均 値	標 準 偏 差	最 大 値 (最小値)
密 度	g/cm^3	—	3.16	—	—	—	3.14	—	—	—	3.04	—	—
比表面積	cm^2/g	2500 以上	3210	80	—	3300 以上	4810	113	—	3000 以上	3780	75	—
凝 結	水 量 %	—	28.0	—	—	—	30.1	—	—	—	30.7	—	—
	始 発 h-min	60min 以上	2—28	—	(2—10)	45min 以上	1—30	—	(1—15)	60min 以上	3—17	—	(2—40)
	終 結 h-min	10h 以下	3—53	—	5—10	10h 以下	2—46	—	3—00	10h 以下	5—00	—	6—10
安 定 性	パット法	良	良	—	—	良	良	—	—	良	良	—	—
圧縮強さ N/mm^2	1 d	—	—	—	—	10.0 以上	27.1	1.12	—	—	—	—	—
	3 d	12.5 以上	29.4	1.16	—	20.0 以上	48.4	1.48	—	10.0 以上	23.8	1.28	—
	7 d	22.5 以上	45.2	1.95	—	32.5 以上	59.3	1.83	—	17.5 以上	37.8	1.81	—
	28 d	42.5 以上	64.2	2.07	—	47.5 以上	68.3	2.02	—	42.5 以上	64.9	2.04	—
水和熱 J/g	7 d	—	322	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	28 d	—	384	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
化学成分 %	酸化マグネシウム	5.0 以下	1.57	—	1.83	5.0 以下	1.49	—	1.70	6.0 以下	3.13	—	3.35
	三酸化硫黄	3.0 以下	1.95	—	2.19	3.5 以下	3.12	—	3.31	4.0 以下	1.78	—	2.04
	強熱減量	3.0 以下	1.00	—	1.32	3.0 以下	1.38	—	1.58	3.0 以下	1.53	—	1.83
	全アルカリ	0.75 以下	0.52	—	0.63	0.75 以下	0.43	—	0.52	—	—	—	—
	塩化物イオン	0.035 以下	0.022	—	0.030	0.02 以下	0.015	—	0.018	—	0.012	—	—
備 考		○ 高炉セメントB種 ・ ベースセメントの全アルカリ…………… 0.52% ・ 高炉スラグ混入量…………… 40～45% ○ 試験方法はJIS R 5201, JIS R 5202 (本体法), JIS R 5203 及び JIS R 5204による。 ○ 直近6ヶ月全アルカリ最大値 ・ 普通ポルトランドセメント…………… 0.63% ・ 早強ポルトランドセメント…………… 0.53%											

連絡先

《 添付資料 3-1 》

【チェック項目】

- ・ 外観は、水あめ状の無色ないしわずかに着色した液体かどうか。
- ・ 比重は 40 以上か。
- ・ 二酸化珪素は、28～30%か。
- ・ 酸化ナトリウムは、9～10%か。
- ・ 鉄は、0.02%以下か。
- ・ 水不溶分は、0.2%以下か。

<参考>



品質規格表

平成 年 月 日

御中



■珪酸ソーダ 3 号

比重 (15℃, 'Be')	40 以上
水不溶分	0.05% 以下
鉄 (Fe)	0.02% 以下
二酸化けい素 (SiO ₂)	28～30 %
酸化ナトリウム (Na ₂ O)	9～10 %
モル比	3.00～3.30
外 観	無色ないしわずかに着色した液体

《 添付資料 3-2 》

<参考>

検 査 成 績 報 告 書

御 中

表示規格 品質規格

年 月 日

品 名 ■■■ 珪酸ソーダ 3 号

容量×個数 kg ×

ロ ッ ト 番 号		00829C-1				
検 査 項 目	規 格	容積×個数				
比重(15℃, B ₆)	40以上	41.5				
モル比(M.R.)	—	3.11				
水不溶分	0.05%以下	0.05% _下				
鉄 (Fe)	0.02%以下	0.02% _下				
二酸化けい素 (SiO ₂)	28~30%	28.59				
酸化ナトリウム (Na ₂ O)	9~10%	9.48				
外 観	無色ないし わずかに着色	合 格				

《 添付資料 4-1 》

【見 本】

平成 年 月 日

殿

硬化剤 品質証明書

MGロック

下記銘柄は以下の品質であることを証明します。

銘 柄

材 料 種 類	溶液型、懸濁型の別	溶 液 型
	溶液型の場合は有機、無機の別	無 機
	瞬結、中結、長結の別	瞬 結
荷 姿	20 kg／ポリエチレン袋	

項 目	規 格	備 考
外 観	白色フレーク状	
比 重	0.8～1.1	見掛比重
主 成 分	硫酸水素ナトリウム NaHSO_4	
	硫酸マグネシウム MgSO_4	
重金属分析	検 出 さ れ な い	有害物質に係わる排水基準に適合
安 全 性	毒劇物及び弗素化合物を含まない	

《 添付資料 4-2 》

結 果 報 告 書

No. 123074

御中

平成 年 4 月 18 日

件名

土質安定剤の分析

試料

貴社ご提出の下記1点

試料名は分析結果の欄をご参照ください。

分析結果

単位:mg/l

項目	試料名	検出限界	分 析 法 (規格JISK0102)
カ ド ミ ウ ム	不検出	0.01	規格55.2, 原子吸光法
シ ア ン	不検出	0.05	規格38.1.2, 及び38.3
有 機 燐	不検出	0.05	環告64付表1, FPD ガスクロ法
鉛	不検出	0.1	規格54.2, 原子吸光法
6 価 ク ロ ム	不検出	0.05	規格65.2.1, 吸光光度法
総 水 銀	不検出	0.005	環告59付表3, 原子吸光法
砒 素	不検出	0.05	規格61.1, 吸光光度法
ア ル キ ル 水 銀	不検出	0.0005	環告59付表4, ECD ガスクロ法
P C B	不検出	0.0005	環告59付表5, ECD ガスクロ法
トリクロロエチレン	不検出	0.03	JIS-K-0125, 5.5溶媒抽出法
テトラクロロエチレン	不検出	0.01	JIS-K-0125, 5.5溶媒抽出法

以 上

日本薬液注入協会統一様式

<参考>

薬液注入用記録計チャート

1. 適 用

薬液注入流量圧力の記録計に使用するチャートについて規定する。

2. 仕 様

- 1) チャート紙有効幅 100 mm
- 2) チャート紙全長 8 m
- 3) 形 状 折りたたみ式 (折り目間隔40mm)
- 4) 目盛区分 60 区分 (時間軸区分10mm)
- 5) 単 位 0~60 ℓ/min
0~60 kg/cm^2

- 6) 単位文字間隔 120 mm

- 7) 印刷色 目盛線 : 灰 色
単位・数字: 0~60 ℓ/min 赤色
0~60 kg/cm^2 緑色

残量警告帯: 赤 色

取扱注意文: 赤 色

その他 : 灰 色

- 8) 表 記 ロット番号

(社)日本薬液注入協会、協会ロゴマーク

認定番号

表記の印刷間隔 (240 mm)

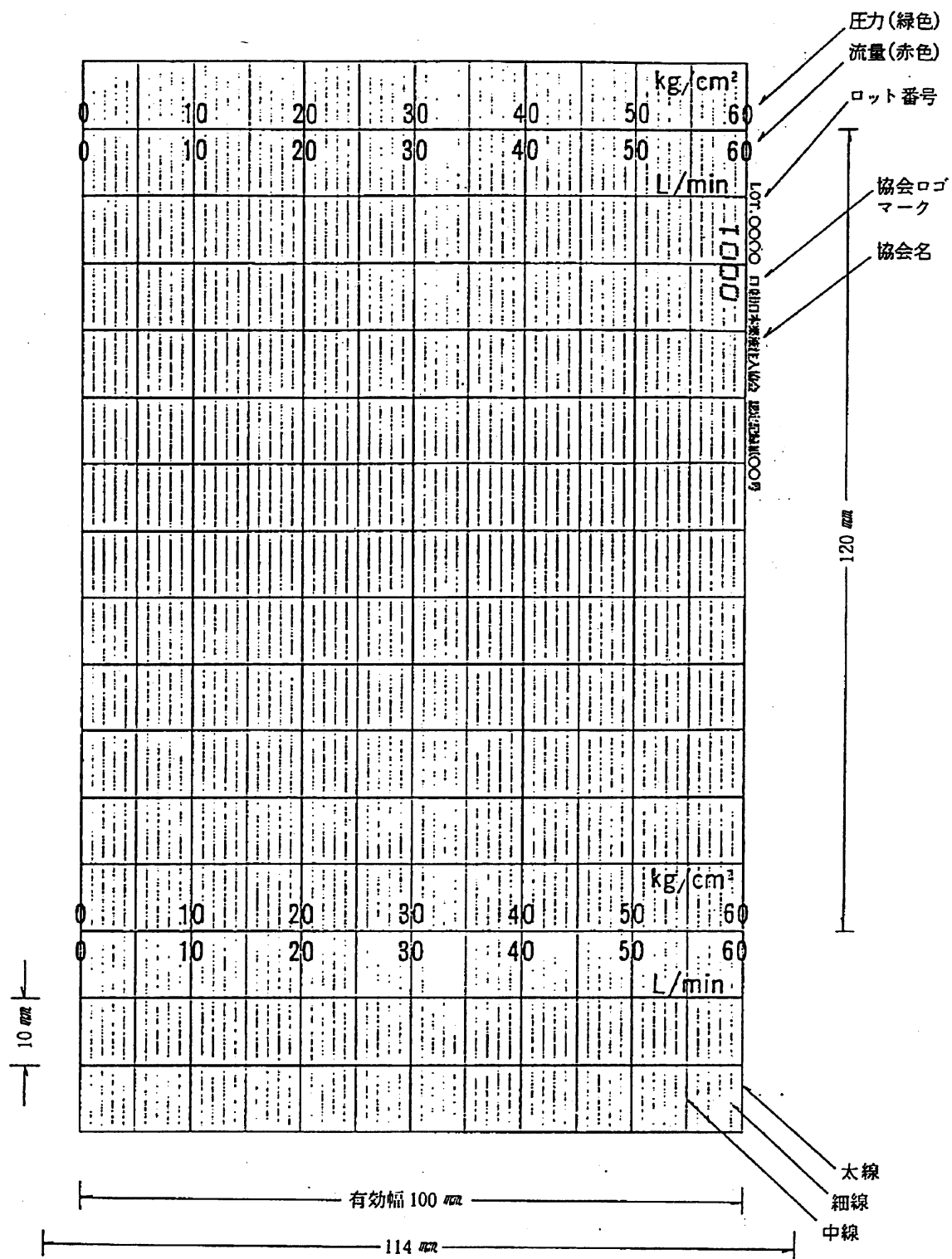
- 9) 紙質(計測用記録紙) 米秤量 43.7 \pm 20 g/m^2
厚 さ 5.2 \pm 0.3 mm/100
気中伸縮率 伸び率 (縦) 0.100 %以下
20 $^{\circ}C$ (横) 0.500 %以下
縮み率 (縦) 0.100 %以下
(横) 0.300 %以下

- 10) 梱包単位 大箱 20冊入り (小箱10個入り)
小箱 2冊入り

《 チャート紙 2 》

日本薬液注入協会統一

チャート紙



監督員	係 長	課・所・場長

令和 年 月 日受付 ㊤

地盤改良注入 (~~納入書・報告書・成績表~~)

令和〇〇年〇〇月〇〇日

広島市水道事業管理者

受注者 住所、商号又は名称、代表者氏名、電話番号

広島市中区基町 9 番 32 号
株式会社 水道建設工業
代表取締役 水道 太郎
082-〇〇〇-〇〇〇

工事名 〇〇一丁目配水管〇〇工事

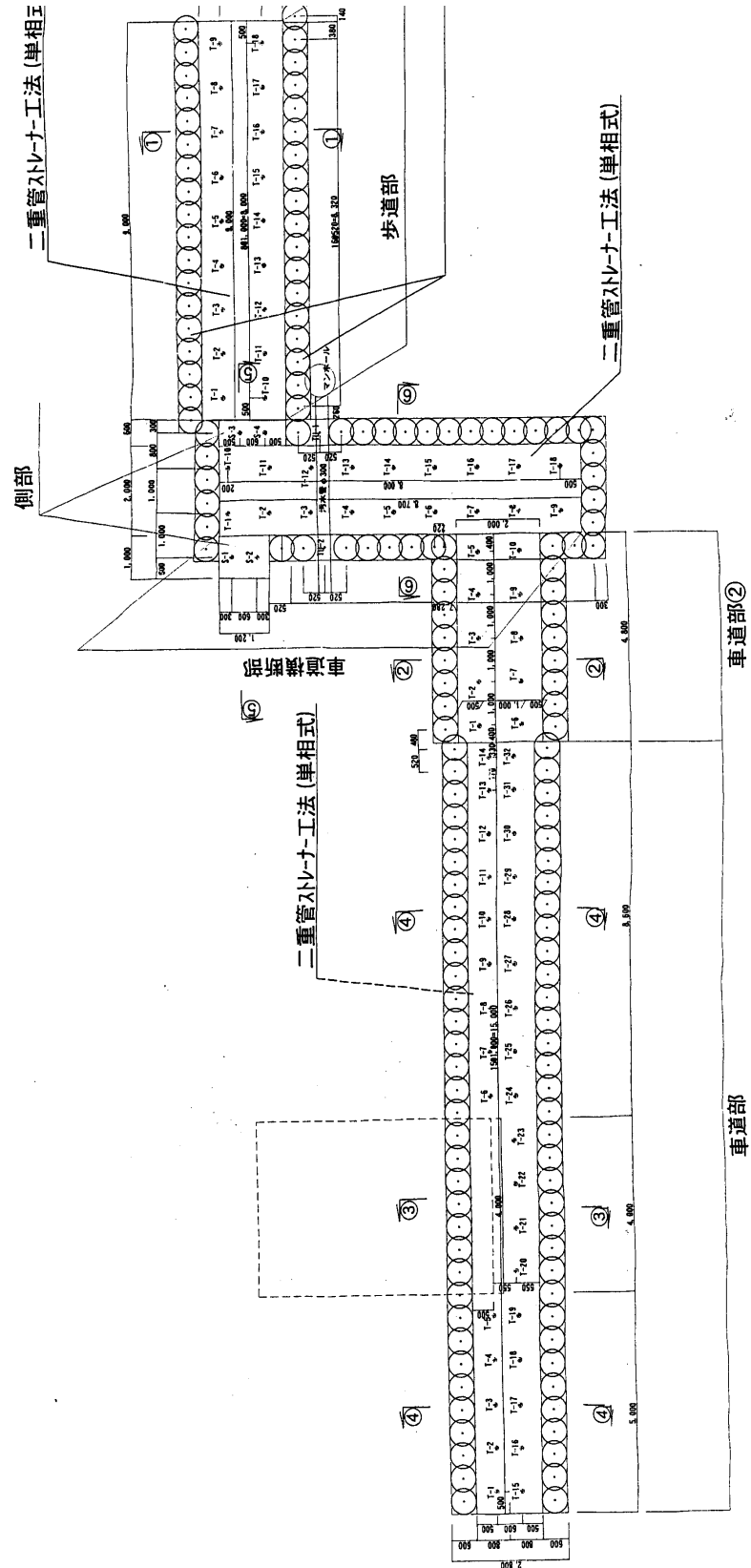
上記工事の 薬液注入の地盤改良注入 (~~納入書・報告書・成績表~~) を別紙のとおり提出します。

注) 不要な文字は抹消すること。

《 添付資料 1 》

※ 変更が無ければ、設計図書を使用してもよい。

薬液注入工 平面図 $S=1/50$

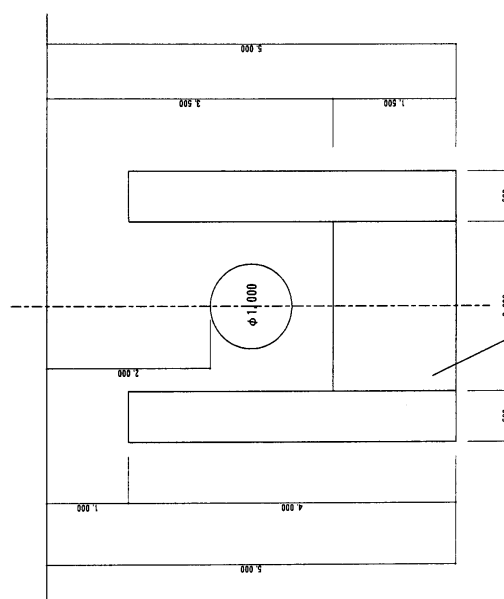


《 添付資料 2 》

※ 変更が無ければ、設計図書を使用してもよい。

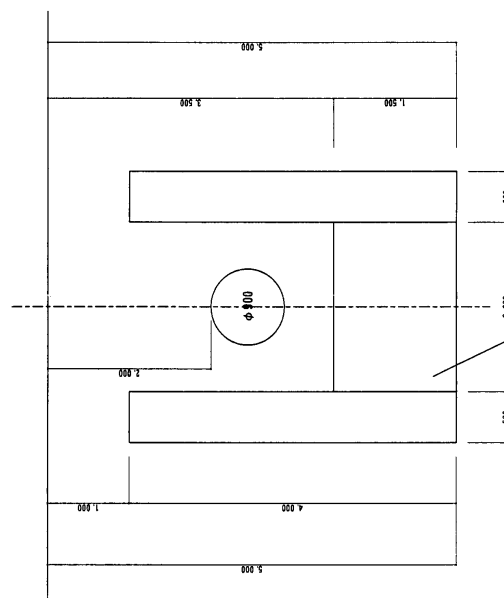
地上部配管工 補助工法 一般断面図 S=1/50

①-①断面図



二重管ストレーナ工法 (単相式)

②-②断面図



二重管ストレーナ工法 (単相式)

《 添付資料 3-2 》

【見 本】

【チェック項目】

※ 送品票に下記項目が印字等されているか確認する。

- ・ 納入(出庫)年月日あるいは伝票発行年月日
- ・ 納入(出庫)伝票の整理連続番号あるいは管理連続番号
- ・ メーカー及び取扱工場の法人各々の正式名称
- ・ メーカー及び取扱工場の朱印
- ・ 納入(出庫)製品の名称
- ・ 納入(出庫)製品の数量及び単位

送 品 票

No. 5001

御中

年 11 月 15 日

扱

品 名	入 数	個 数	数 量 kg	備 考
3号珪酸ソーダ		R	9,800	15時30分
便 名	持込	注文 No.	返却容器	受領者

【注意】

- ・ 比重 1.4 kg/L
- $$9,800 \text{ kg} \div 1.4 \text{ kg/L} = 7,000 \text{ L}$$

【チェック項目】

※ 計量証明書に下記項目が印字等されているか確認する。

- ・ 計量年月日及び時刻
- ・ 計量機番号
- ・ 計量回数
- ・ 総重量、空車重量、正味重量

計 量 証 明 書

No.	1	月 日
車 番	3120	
1.銘柄	1	
2.乗者	3	
3.行先		
4.		
総 重	13422	19410kg
空 車	12159	9610kg
正 味		9800kg

上記の通り計量し証明致します

広島県計量登録番号第211号
電気抵抗線式はかり
総重量 30,000kg

主任計量者	計 量 者

[illegible]

注 入 日 報

(平成 年 11 月 15 日) 天候: 晴れ

工事名:

注入 方式	<input checked="" type="checkbox"/> 二重管単相式	注入 材料	<input type="checkbox"/> アルカリ系	<input checked="" type="checkbox"/> 中・酸性系
	<input type="checkbox"/> 二重管複相式		<input checked="" type="checkbox"/> 無機系	<input type="checkbox"/> 有機系
	<input type="checkbox"/> ダブルバック式		<input type="checkbox"/> 懸濁型	<input checked="" type="checkbox"/> 溶液型

検印			記入者印
現場代理人	主任技術者	注入責任者	

施工箇所	注入孔 No.	注入長 m	ステ ップ 数	記録計 No.	チャート No.	注 入 量 (L)		記 事	勤務体制 ■ 昼勤 □ 夜勤 □ 昼勤/夜勤
						種 別			
						MG-ロック3号-II型			作業時間 開始 終了 8:00 17:00
									注入機器(セット数) □1 □2 □3 □4
									ゲムの タ測 イ定
									注入材料/時間 MGロック3号-II型
									特記事項
									・機材搬入
日 計	0					0			
累 計	0					0			

[進捗率: 0.0 %]		水ガラス管理表 (単位:L)		硬化剤管理表 (単位:kg)			
[計画注入量: 47,008 %]		3号珪酸ソーダ		MGロック3号-II型			
[実施注入量: 0 %]		入荷量	使用量	残量	入荷量	使用量	残量
日計	7,000.0	0.0			0.0	0.0	
累計	7,000.0	0.0	7,000.0		0.0	0.0	0.0

納 品 書

御中 平成 年 11 月 16 日

担当

注文番号	品 名	個 数	数 量	備 考
	ロツ73-II	120	2400	18

上記の通り納品致しました

納入
場所

《 添付資料 6 》

注入量比較表

	設計 (L)	実施 (L)	差(実施-設計) (L)
歩道部	10,800	10,800	0
横断部	10,440	10,596	156
横断部側部	3,456	3,456	0
車道部	15,696	15,940	244
車道部②	5,760	5,772	12
補足注入	634	664	30
計	46,786	47,228	442

材料比較表

施工箇所	設計		実施		差(実施-設計)	
	3号珪酸ソーダ(L)	MGロック(kg)	3号珪酸ソーダ(L)	MGロック(kg)	3号珪酸ソーダ(L)	MGロック(kg)
歩道部	1,890.0	540.0	1,890.0	540.0	0.0	0.0
横断部	1,827.0	522.0	1,854.3	529.8	27.3	7.8
横断部側部	604.8	172.8	604.8	172.8	0.0	0.0
車道部	2,746.8	784.8	2,789.5	797.0	42.7	12.2
車道部②	1,008.0	288.0	1,010.1	288.6	2.1	0.6
補足注入	111.0	31.7	116.2	33.2	5.2	1.5
計	8,187.6	2,339.3	8,264.9	2,361.4	77.3	22.1

チャート一覧表

【注意】

・チャート一覧表の後にチャートの原紙を添付する。

1号 (EB0552)				2号 (EB0367)				3号 (EB0553)			
施工日	ブロック キャリフレーション	チャートNo.	注入量(L)	施工日	ブロック キャリフレーション	チャートNo.	注入量(L)	施工日	ブロック キャリフレーション	チャートNo.	注入量(L)
11/16	歩道部	9	2,446	11/16	歩道部	4	1,679	11/16	車道横断部	1	1,679
	歩道部	18	2,447		歩道部	3	1,680		側部	1	2,306
	歩道部	17	2,448		歩道部	12	1,681		側部	2	2,307
	歩道部	8	2,449		歩道部	11	1,682		車道横断部	2	2,308
11/17	歩道部	7	2,450	11/17	歩道部	13	1,683	11/17	補足	2	2,309
	歩道部	16	2,451		歩道部	2	1,684		補足	1	2,310
	歩道部	15	2,452		歩道部	2	1,685		補足	2	2,311
	歩道部	15	2,453		歩道部	1	1,686		車道横断部	13	2,312
11/18	歩道部	6	2,454	11/18	車道横断部	3	1,687	11/18	車道横断部	11	2,313
	歩道部	5	2,455		車道横断部	10	1,688		側部	3	2,314
	歩道部	14	2,456		車道横断部	5	1,689		車道横断部	4	2,315
	車道横断部②	5	2,457		側部	4	1,690		車道横断部	12	2,316
11/19	車道横断部	6	2,458	11/19	車道横断部	8	1,691	11/19	車道横断部②	4	2,317
	車道横断部	15	2,459		車道横断部	17	1,692		車道部②	3	2,318
	車道横断部	14	2,460		車道横断部	9	1,693		車道部②	2	2,319
	車道横断部	7	2,461		車道部②	10	1,694		車道部	32	2,320
11/20	車道横断部	16	2,462	11/20	車道部②	9	1,695	11/20	車道部	31	2,321
	車道横断部	18	2,463		車道部②	8	1,696		車道部	30	2,322
	車道部	14	2,464		車道部②	7	1,697		車道部	29	2,323
	車道部	13	2,465		車道部②	6	1,698		車道部	28	2,324
11/22	車道部	15	2,466	11/22	車道部②	1	1,699	11/22	車道部	27	2,325
	車道部	1	2,467		車道部	6	1,700		車道部	26	2,326
	車道部	2	2,468		車道部	7	1,701		車道部	25	2,327
	車道部	16	2,469		車道部	8	1,702		車道部	18	2,328
11/22	車道部	17	2,470	11/22	車道部	9	1,703	11/22	車道部	5	2,329
	車道部	3	2,471		車道部	10	1,704		車道部	19	2,330
	車道部	4	2,472		車道部	21	1,705		車道部	20	2,331
	歩道部	10	2,473		車道部	22	1,706		車道部	24	2,332
					車道部	23	1,707		車道部	11	2,333
									車道部	12	2,334
1号小計			15,348	2号小計			15,888	3号小計			15,992
				合計			47,228				

監督員	係 長	課・所・場長

令和 年 月 日受付 ㊟

地盤改良注入（~~納入書・報告書・成績表~~）

令和〇〇年〇〇月〇〇日

広島市水道事業管理者

受注者 住所、商号又は名称、代表者氏名、電話番号

広島市中区基町 9 番 32 号
株式会社 水道建設工業
代表取締役 水道 太郎
082-〇〇〇-〇〇〇

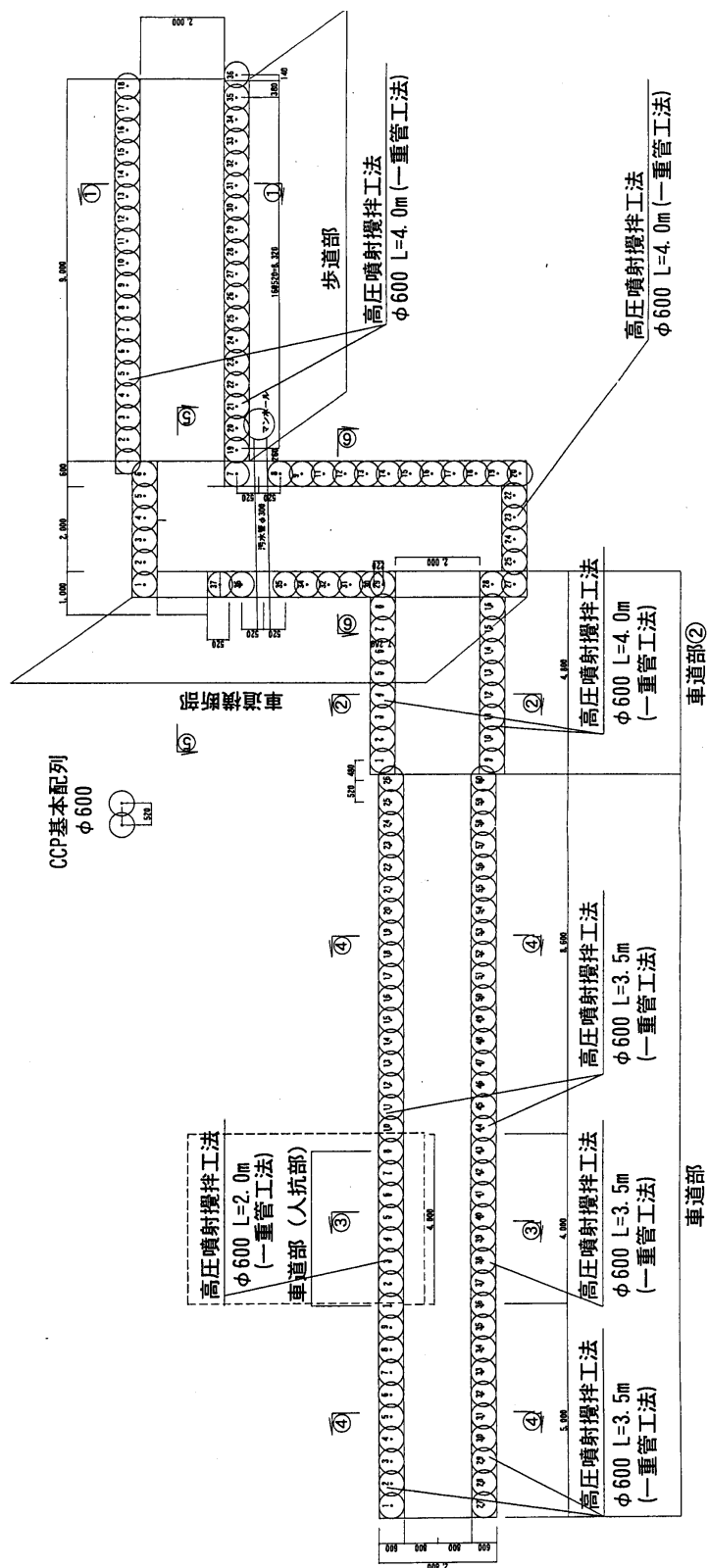
工事名 〇〇一丁目配水管〇〇工事

上記工事の高圧噴射攪拌杭の地盤改良注入（~~納入書・報告書・成績表~~）を別紙のとおり提出します。

注）不要な文字は抹消すること。

《 添付資料 1 》

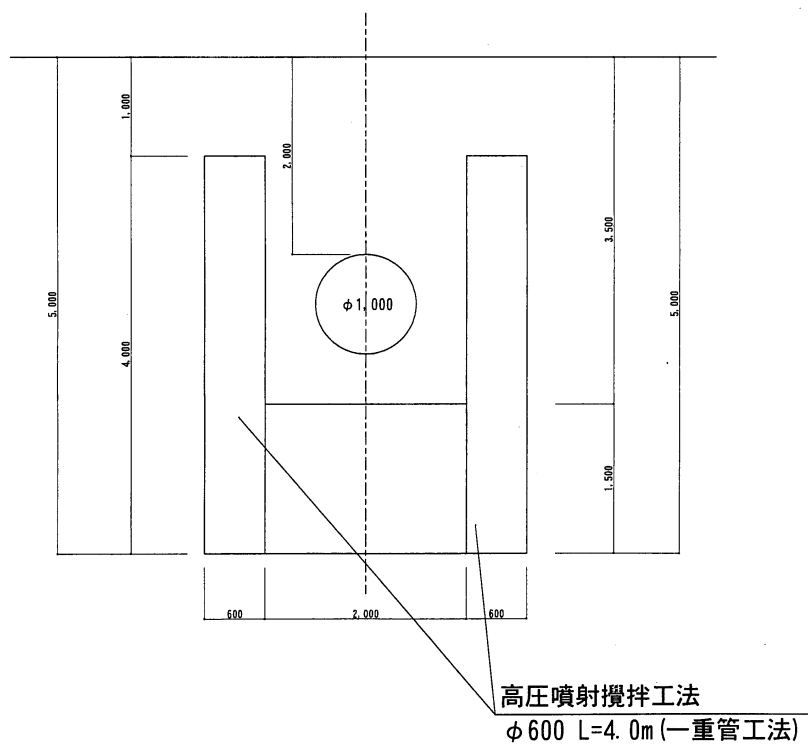
※ 変更がなければ、設計図書を使用してもよい。

CCP工平面図 $S=1/100$ 

地上部配管工 補助工法 一般断面図

 $S=1/50$

⑥-⑥断面図



《 添付資料 3-2 》

① 納入先

バラ		出荷案内書		普通	
出荷年月日 年 10月 19日					
契約先	御中				
納入先	(TEL)				御中
品 名	普通ポルトランドセメント バラ				
数 量	総質量	21,200	正 味 質 量		
	自質量	9,510	11,690kg		
荷 渡 条 件	持ち込み	車 番	3979		
運 送 会 社	運輸株式会社				

16156

上記の通り出荷しましたのでご査収下さい。

《 添付資料 4-2 》

納 品 書							担 当
御中		平成		年 10 月 19 日		[Redacted]	
注文番号	品 名	個 数	数	量	備 考		
	[Redacted] パウダー	100 袋	1000	kg	[Redacted]		
上 記 の 通 り 納 品 致 し ま し た							<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">納入場所</div> <div style="margin-left: 10px;">[Redacted]</div> </div>

硬化材の配合

CCP-6号の1m3当たりの配合は以下の通りとする。

・ 標準配合

セメント	760kg
混和剤(NJパウダー)	5kg
水	757L

↓

計量キャリブレーション後現場配合

セメント	761kg
混和剤(NJパウダー)	5kg
水	757L

CCP-L材料受抐簿

[illegible]

平成 年 10月14日

C C P - L 工 事 日 報

現場代理人

監理技術者

注 入 責 任 者

工事名

【昼勤】・夜勤

天候：晴

施 工 箇 所	造成孔 NO.	掘孔長 (m)	造成長 (m)	造成量 (L)	造成圧力 (kg/cm ²)	備 考	作業時間	開 始	終 了	記 事		
										入荷資材	使用資材	残資材
							品 名	日計 (kg)	累計 (kg)	日計 (kg)	累計 (kg)	(kg)
							セメント	0	0	0	0	0
							混 和 剤	0	0	0	0	0
							機 械 名	台 数		規 格	等	
							JSGマシン	2	JSG-77			
							超高压ポンプ	2	SG-75			
							オクタゴンミキサ	1	1000L			
							セメントサイロ	1	15 t 移動式			
							コンプレッサ	0				
							流量計	2	HR-300			
日 計	0 本	0.00	0.00	0		B	サンドポンプ	0				
累 計	0 本	0.00	0.00	0		B	水中ポンプ	4	2インチ			
記 事	プラント機材搬入、給水ホース配管						水槽	1	10m3			
							クレーン車	1	15 t			
							発電機	2	25、150KVA			
							4 t ユニツク	1				
							パッキン車	0	10 t			

《 添付資料 7 》

数量比較表

造成長、本数比較

	1本当造成長 (m)	設計		実施		差(実施-設計)	
		本数(本)	造成長(m)	本数(本)	造成長(m)	本数(本)	造成長(m)
歩道部	4.0	36	144.0	36	144.0	0	0.0
車道横断部	4.0	33	132.0	33	132.0	0	0.0
車道部	3.5	60	210.0	60	210.0	0	0.0
車道部②	4.0	16	64.0	16	64.0	0	0.0
車道部(人抗箇所)	2.0	8	16.0	8	16.0	0	0.0
計		153	566.0	153	566.0	0	0.0

注入量比較

	1本当造成長 (m)	注入量(L)		
		設計	実施	差(実施-設計)
歩道部	4.0	63,360	63,609	249
車道横断部	4.0	58,080	58,422	342
車道部	3.5	92,400	92,674	274
車道部②	4.0	28,160	28,211	51
車道部(人抗箇所)	2.0	7,040	7,157	117
計		249,040	250,073	1,033

設計注入量 (造成長=4.0m) $Q=4.0\text{m} \times 5\text{分/m} \times 0.08 \times 1.01=1,760\text{L}$ (造成長=3.5m) $Q=3.5\text{m} \times 5\text{分/m} \times 0.08 \times 1.01=1,540\text{L}$ (造成長=2.0m) $Q=2.0\text{m} \times 5\text{分/m} \times 0.08 \times 1.01= 880\text{L}$

造成使用材料比較表

	設計(kg)		実施(kg)		差(実施-設計) (kg)	
	セメント	NJパウダー	セメント	NJパウダー	セメント	NJパウダー
歩道部	48,154	317	48,407	318	253	1
車道横断部	44,141	290	44,459	292	318	2
車道部	70,224	462	70,525	463	301	1
車道部②	21,402	141	21,469	141	67	0
車道部(人抗箇所)	5,350	35	5,447	36	96	1
計	189,270	1,245	190,306	1,251	1,035	5

《 添付資料 8 》

【注意】

・チャート一覧表の後にチャートの原紙を添付する。

チャート一覧表

1号機

施工日	ブロック	孔番	注入量(L)	備考	施工日	ブロック	孔番	注入量(L)	備考
10/25	車道横断部	2	1,762		11/3	車道部	58	1,543	
	〃	3	1,762			〃	57	1,542	
	〃	4	1,761			〃	56	1,543	
	〃	5	1,763			〃	55	1,545	
	〃	6	1,762			〃	54	1,549	
10/26	歩道部	1	1,761		11/4	〃	53	1,542	
	〃	2	1,761			〃	48	1,543	
	〃	3	1,761			〃	47	1,545	
10/27	〃	14	1,762			〃	46	1,543	
	〃	13	1,762			〃	45	1,544	
	〃	12	1,762			〃	44	1,545	
	〃	11	1,765			〃	43	1,545	
	〃	10	1,762		11/5	車道部②	9	1,765	
10/28	〃	9	1,777			車道部	60	1,545	
	〃	8	1,761			〃	59	1,546	
	〃	7	1,761			〃	52	1,543	
	〃	6	1,761			〃	51	1,545	
10/29	〃	5	1,787			〃	50	1,546	
	〃	15	1,762		11/8	〃	49	1,545	
	〃	16	1,763			〃	42	1,544	
	〃	17	1,764			〃	41	1,543	
10/30	〃	18	1,792			〃	40	1,542	
	〃	4	1,762			〃	39	1,546	
11/1	車道横断部	32	1,796			〃	38	1,544	
	〃	31	1,763		11/9	〃	27	1,545	
	〃	30	1,761			〃	28	1,544	
	〃	29	1,762			〃	29	1,545	
	車道部②	8	1,762			〃	30	1,545	
11/2	〃	7	1,762		11/10	〃	31	1,545	
	車道横断部	28	1,762			〃	32	1,544	
	車道部②	16	1,765			〃	33	1,546	
	〃	15	1,762			〃	34	1,545	
	〃	14	1,761		11/11	〃	35	1,545	
	〃	13	1,762			〃	9	1,545	
	〃	12	1,763			〃	36	1,546	
	〃	11	1,764			〃	37	1,544	
	〃	10	1,768						